

調査結果の概要

調査結果の概要は、報告書から主な調査結果を抜粋したものである。

本調査は、身体障害者、知的障害者、精神障害者及び難病患者それぞれの調査票により実施した。

調査結果は、報告書の「第2章 身体障害者の状況(21p～100p)」「第3章 知的障害者の状況(101p～161p)」「第4章 精神障害者の状況(163p～222p)」「第5章 難病患者の状況(223p～295p)」にそれぞれの障害、難病ごとに掲載した。

また、それぞれの障害及び難病の調査票に共通で、相互に比較することが可能なものは、「第6章 身体障害者・知的障害者・精神障害者・難病患者の状況(297p～319p)」に掲載した。

なお、難病患者については、25年度調査から新たに調査対象として追加したため、20年度との比較記載はない。

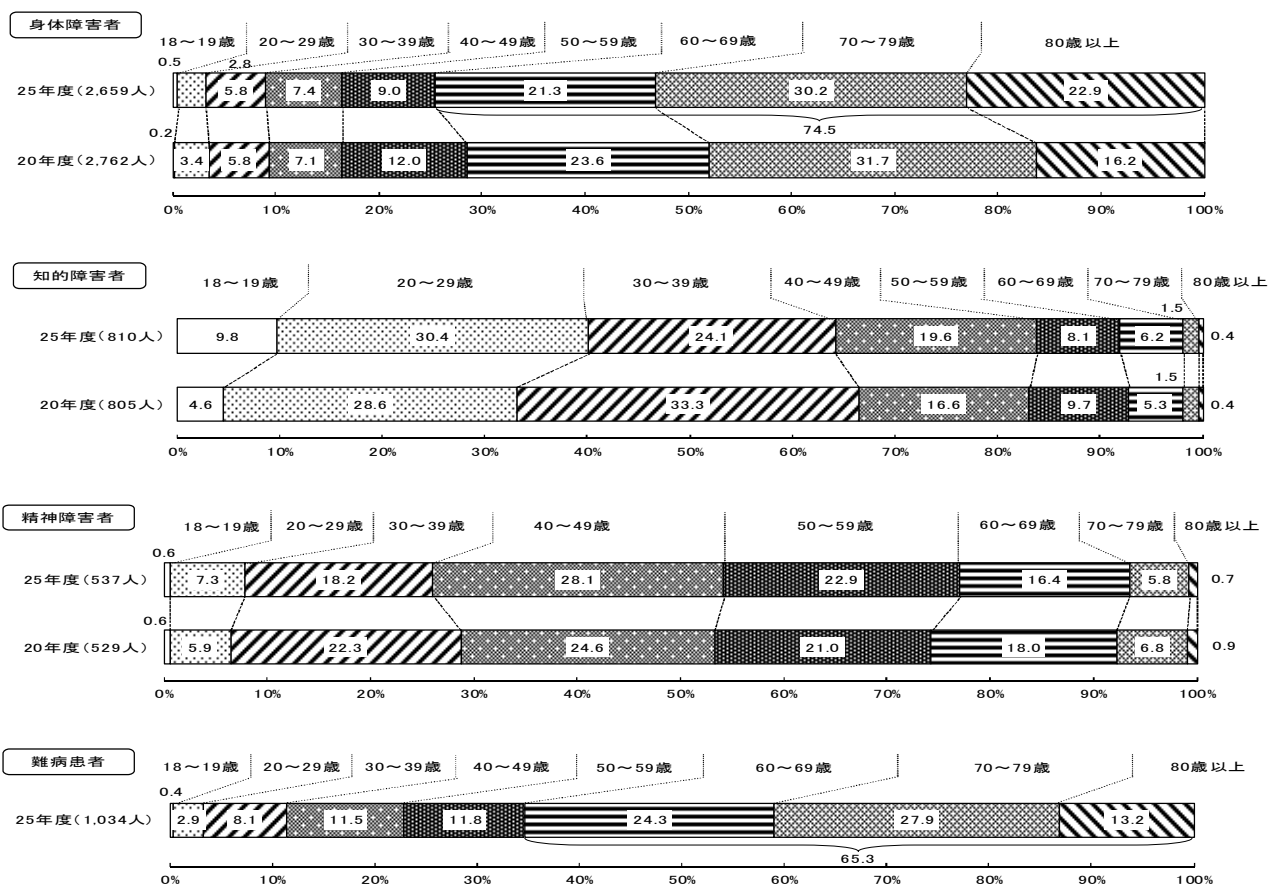
○ 身体障害者・知的障害者・精神障害者・難病患者の状況

※報告書「第6章 身体障害者・知的障害者・精神障害者・難病患者の状況(297p～319p)」からの主な調査結果の抜粋

1 回答者の概況 年齢階級

回答者の年齢階級をみると、身体障害者では「70～79歳」の割合が30.2%、知的障害者では「20～29歳」が30.4%、精神障害者では「40～49歳」が28.1%、難病患者では「70～79歳」が27.9%とそれぞれ最も高くなっている。60歳以上の割合について、身体障害者では74.5%、難病患者では65.3%となっている。(図VI-1-2 本文298p)

図VI-1-2 年齢階級

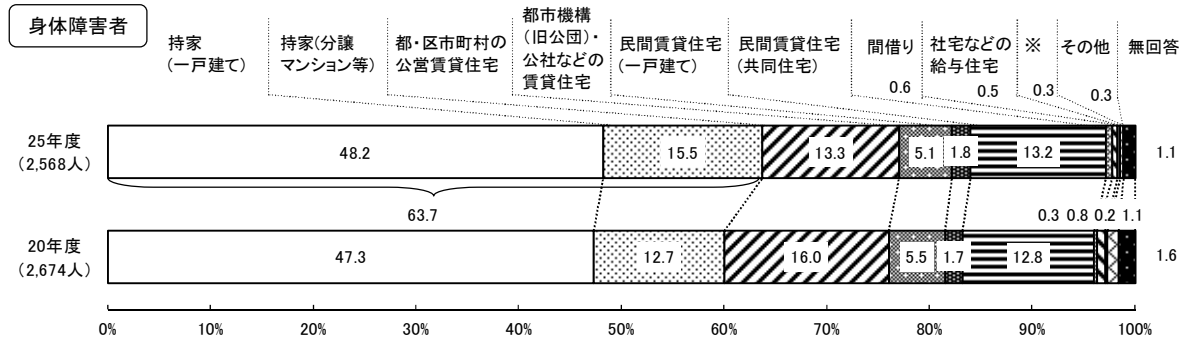


2 住居の種類

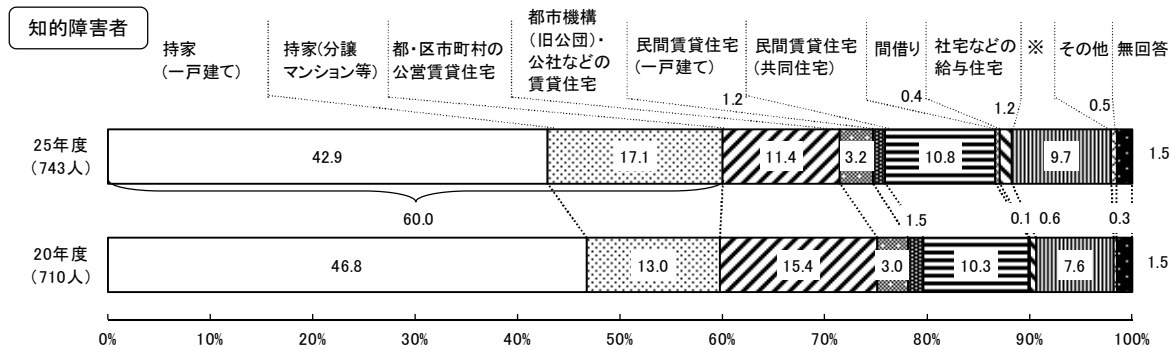
在宅で生活している人に住居の種類を聞いたところ、「持家」の割合は、身体障害者では63.7%、知的障害者では60.0%、精神障害者では38.1%、難病患者では70.3%となっている。知的障害者の「グループホーム・ケアホーム」の割合は9.7%で、20年度調査に比べて2.1ポイント上昇している。(図VI-2-1 本文299p)

(注)住居の種類については、所有、賃貸の名義が対象者本人と限定していない。そのため、家族等の名義になっている場合も含まれており、調査結果と所有者、賃貸の名義人とは必ずしも一致しない。

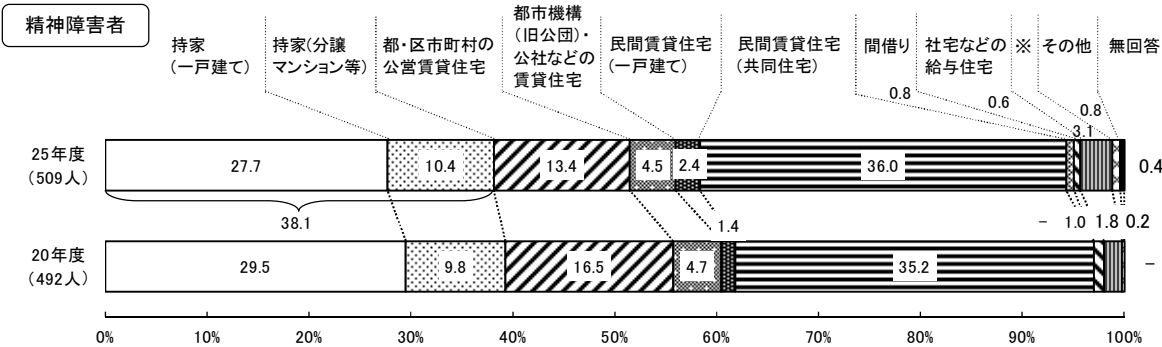
図VI-2-1 住居の種類



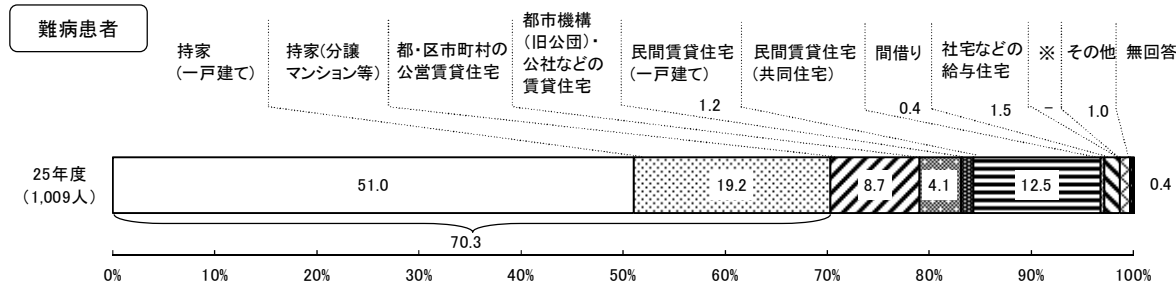
(注)※は、福祉ホーム、グループホーム、ケアホーム、重度身体障害者グループホームである。



(注)※は、グループホーム、ケアホームである。



(注)※は、福祉ホーム、グループホーム、ケアホームである。



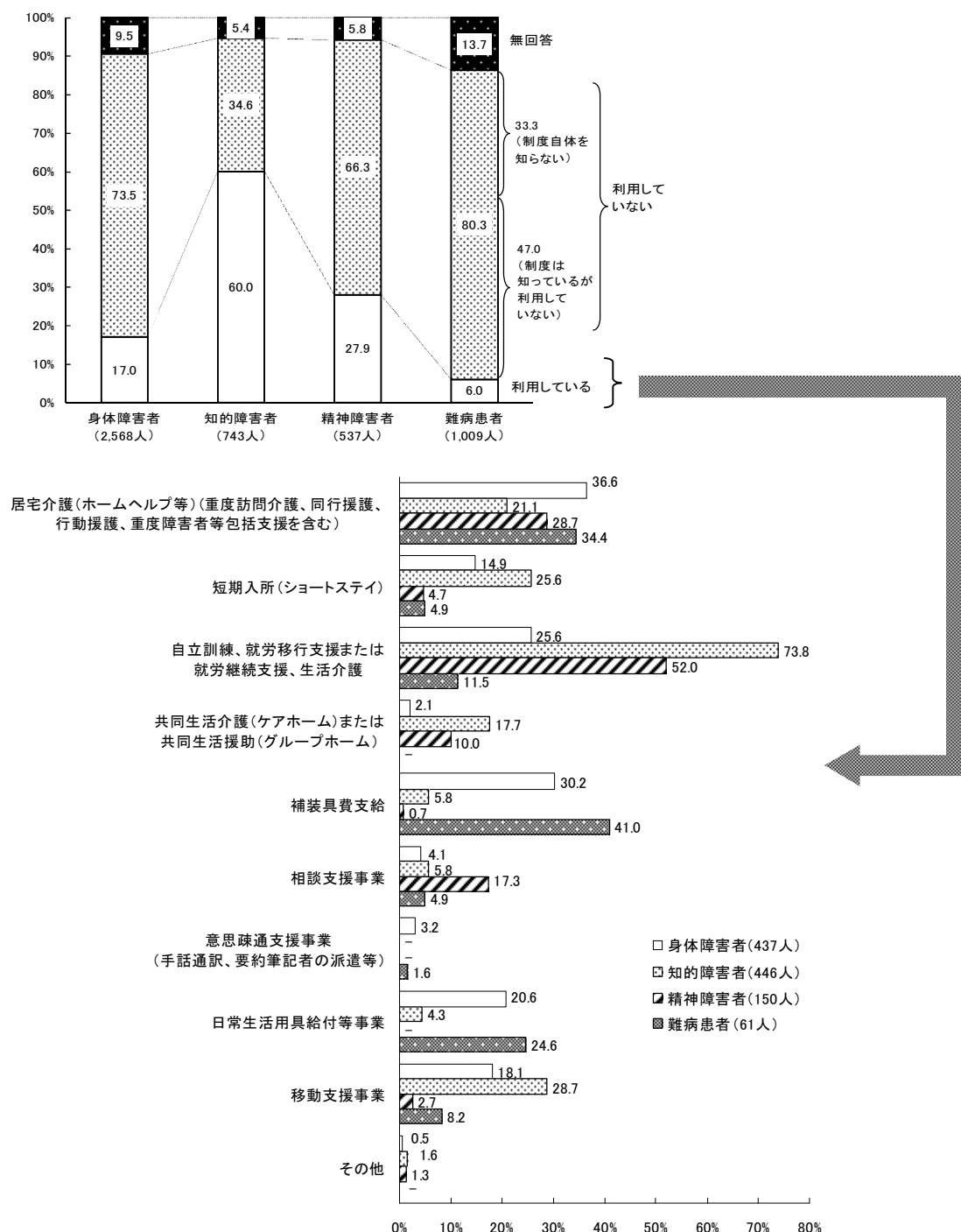
(注)※は、福祉ホーム、ケアホーム、グループホーム、重度身体障害者グループホームである。

3 障害者総合支援法による障害福祉サービス等

精神障害者及び在宅で生活している身体障害者、知的障害者、難病患者に、過去 1 年間の障害者総合支援法（平成 25 年 3 月までは障害者自立支援法。以下同じ。）によるサービスの利用状況について聞いたところ、利用した人の割合は、知的障害者は 60.0%、精神障害者は 27.9%となっている。一方、身体障害者は 17.0%、難病患者は 6.0%となっている。

利用したサービスで最も割合が高かったのは、身体障害者では「居宅介護（ホームヘルプ等）」で 36.6%、知的障害者と精神障害者は「自立訓練、就労移行支援または就労継続支援、生活介護」で、それぞれ 73.8%、52.0%、難病患者では「補装具費支給」が 41.0%となっている。（図VI-8-1 本文 311p）

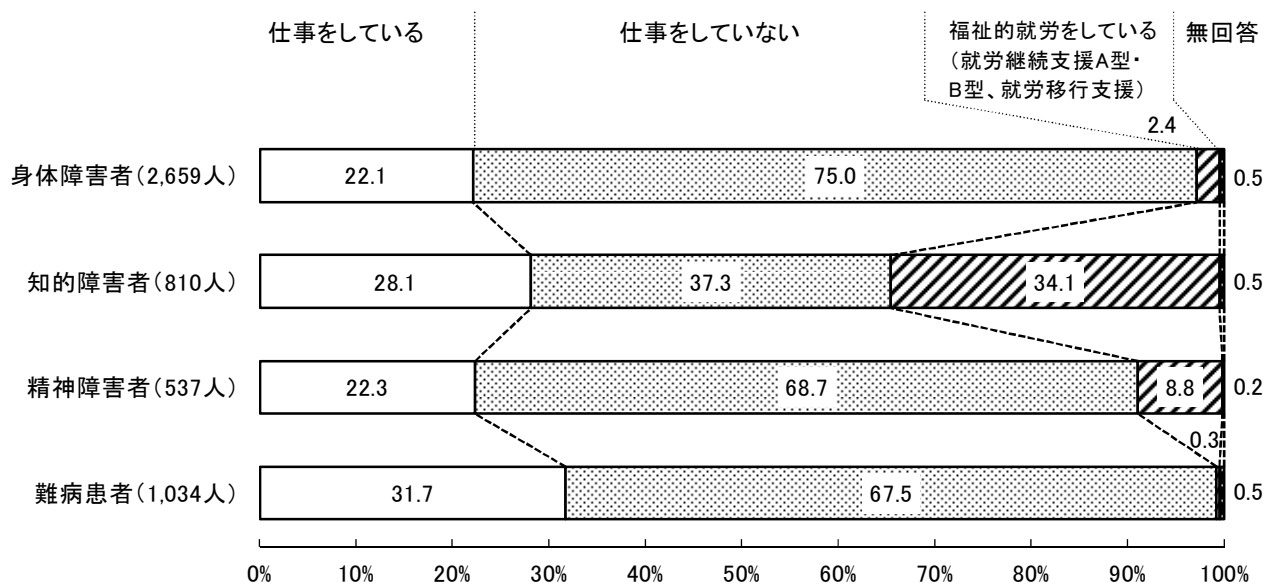
図VI-8-1 障害者総合支援法によるサービスの利用状況〔複数回答〕



4 収入を伴う仕事の有無

平成 25 年 10 月 16 日現在、収入を伴う仕事をしているかどうか聞いたところ、「仕事をしている」と答えた人の割合は、身体障害者が 22.1%、知的障害者が 28.1%、精神障害者が 22.3%、難病患者が 31.7%となっている。また、「福祉的就労をしている」と答えた人の割合は、身体障害者が 2.4%、知的障害者が 34.1%、精神障害者が 8.8%、難病患者が 0.3%で、知的障害者の割合が高くなっている。(図VI-7-1 本文 307p)

図VI-7-1 収入を伴う仕事の有無

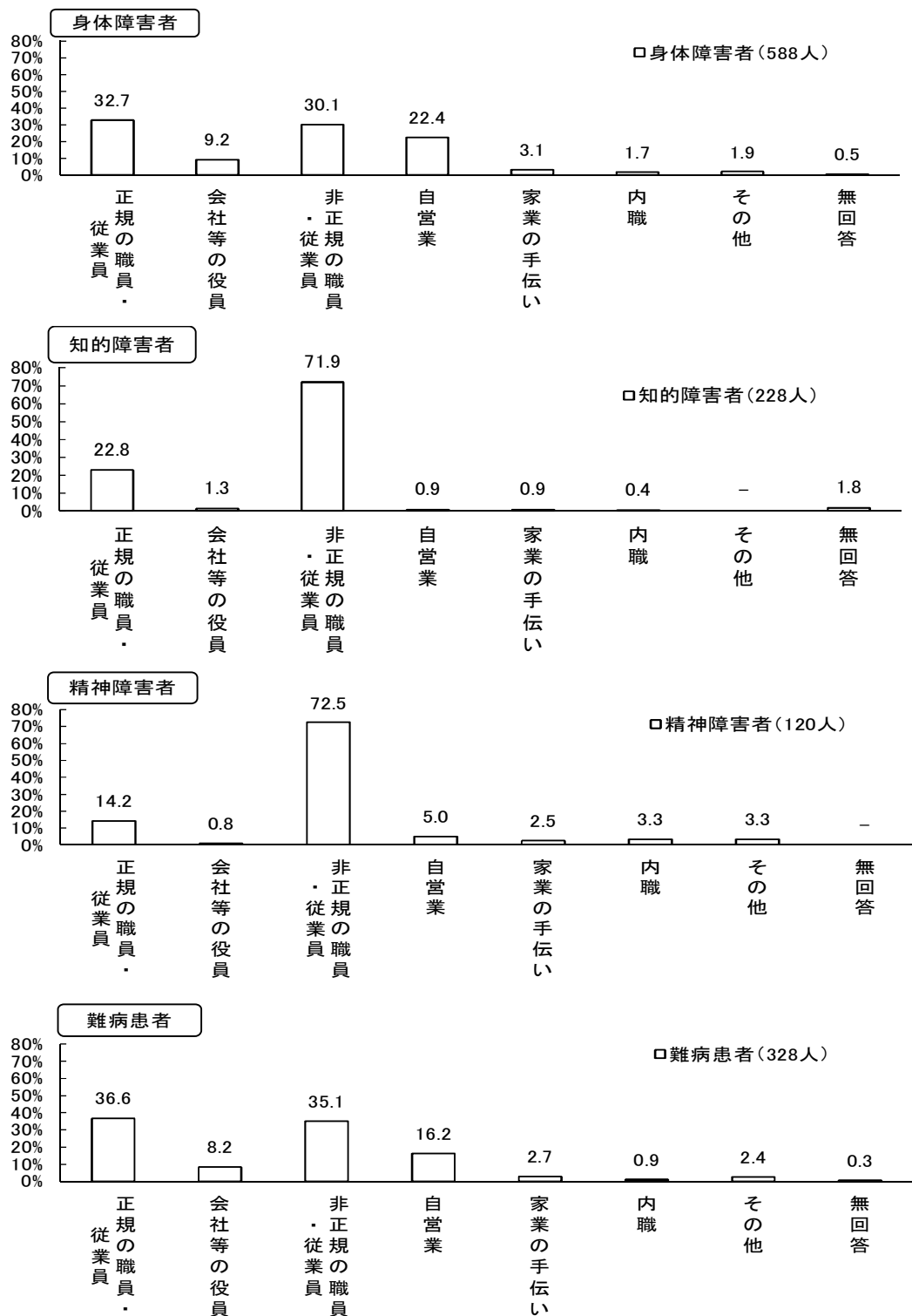


(注) 20 年度調査とは、選択肢が異なるため、比較は行わない。

5 仕事の種類〔複数回答〕

仕事をしている人の仕事の種類をみると、身体障害者では「正規の職員・従業員」の割合が32.7%と最も高く、知的障害者と精神障害者では、「非正規の職員・従業員」の割合が最も高くなっている（知的障害者71.9%、精神障害者72.5%）。また、難病患者では「正規の職員・従業員」の割合が36.6%と最も高く、次いで「非正規の職員・従業員」の割合が35.1%となっている。（図VI-7-2 本文308p）

図VI-7-2 仕事の種類〔複数回答〕



（注1）20年度調査とは、選択肢が異なるため、比較は行わない。

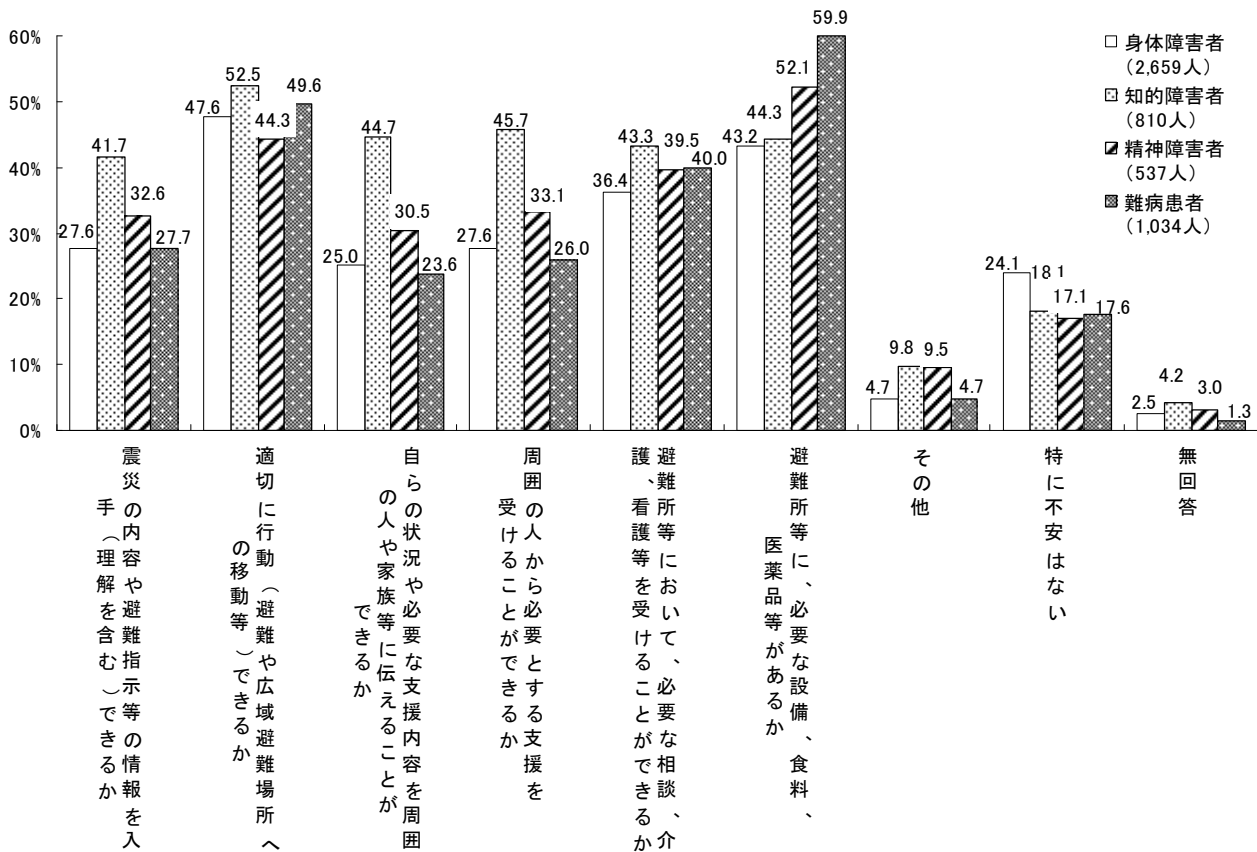
（注2）非正規の職員・従業員には「パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員）」を含む。

6 災害関係

(1) 震災時に不安を感じる事〔複数回答〕

震災時に不安を感じることを聞いたところ、身体障害者と知的障害者は「適切に行動（避難や広域避難場所への移動等）できるか」と答えた割合が最も高く（身体障害者 47.6%、知的障害者 52.5%）、精神障害者と難病患者は「避難所等に、必要な設備、食料、医薬品等があるか」と答えた割合が最も高かった（精神障害者 52.1%、難病患者 59.9%）。(図VI-11-1 本文 318p)

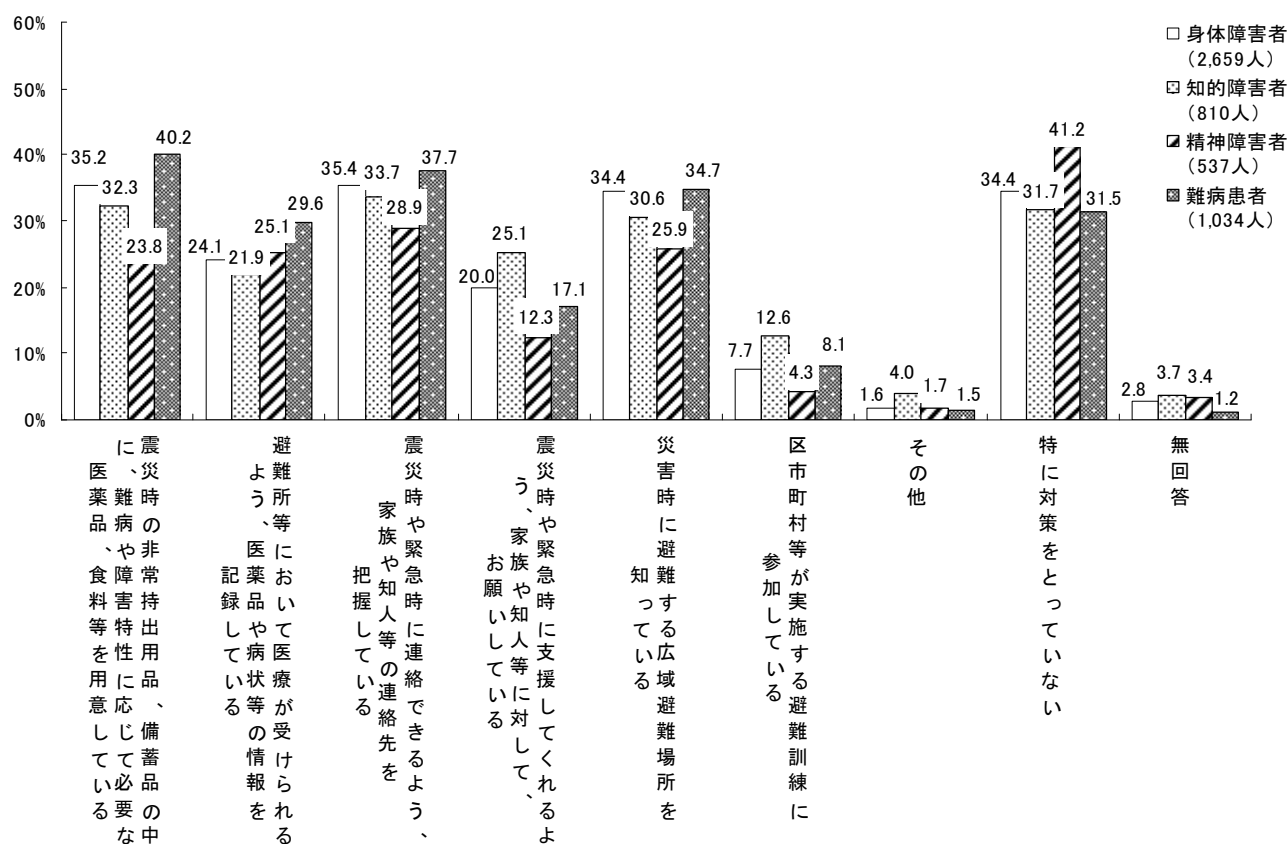
図VI-11-1 震災時に不安を感じる事〔複数回答〕



(2) 震災に備えて、難病や障害特性に応じた特別な対策をとっているか〔複数回答〕

震災に備えて、難病や障害特性に応じた特別な対策をとっているかを聞いたところ、身体障害者、知的障害者、精神障害者は「震災時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人等の連絡先を把握している」と答えた割合が最も高かった（身体障害者 35.4%、知的障害者 33.7%、精神障害者 28.9%）。難病患者は「震災時の非常持出用品、備蓄品の中に、難病や障害特性に応じて必要な医薬品、食料等を用意している」と答えた割合が 40.2%で最も高かった。また、「特に対策をとっていない」と回答した人は3障害及び難病ともに3割を超えている（身体障害者 34.4%、知的障害者 31.7%、精神障害者 41.2%、難病患者 31.5%）。(図VI-11-2 本文 319p)

図VI-11-2 震災に備えて、難病や障害特性に応じた特別な対策をとっているか〔複数回答〕



○ 身体障害者 2,659 人(回答者)の状況

※報告書「第2章 身体障害者の状況 (21p～100p)」からの主な結果の抜粋

1 就労の状況

(1) 収入を伴う仕事の有無(調査基準日現在)－障害名(複数回答)、年齢階級別

「仕事をしている」人は65歳未満では40.5%

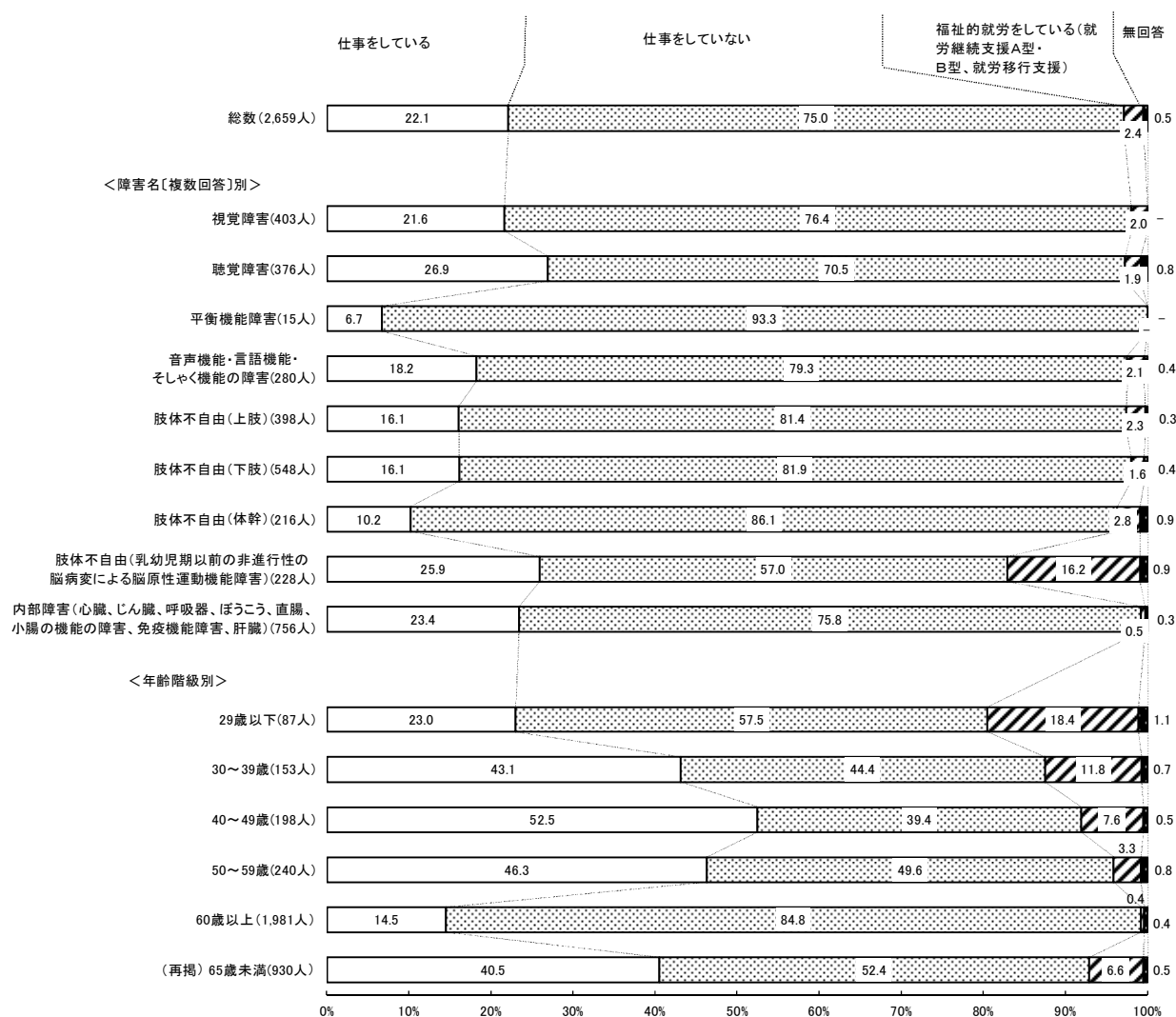
収入を伴う仕事の有無は「仕事をしている」割合が22.1%、「仕事をしていない」が75.0%、「福祉的就労をしている」は2.4%であった。

障害名別にみると、「仕事をしている」割合は、聴覚障害が26.9%と最も高く、「福祉的就労をしている」の割合は肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)が16.2%と他の障害と比較して10ポイント以上高くなっている。

年齢階級別にみると「仕事をしている」割合は、65歳未満で40.5%となっている。(図Ⅱ-5-1 本文47p)

問 あなたは平成25年10月16日(調査基準日)現在、収入を伴う仕事をしていますか。

図Ⅱ-5-1 収入を伴う仕事の有無(調査基準日現在)－障害名(複数回答)、年齢階級別



(注) 20年度調査とは選択肢が異なるため、比較は行わない。

(2) 仕事の種類〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

※調査基準日現在、「仕事をしている」と回答した 588 人が対象

せい き しよくいん じゅうぎょういん わりあい もっと たか
正規の職員・従業員の割合が最も高く 32.7%

仕事の種類を聞いたところ、「正規の職員・従業員」の割合が 32.7%で最も高く、次いで「非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員・派遣職員を含む））」が 30.1%、「自営業」が 22.4%であった。

障害名別にみると肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では「正規の職員・従業員」の割合が 50.8%と 5 割を超えている。（表Ⅱ-5-1 本文 48p）

とい しごと しゅるい なん
問 仕事の種類は何ですか。

表Ⅱ-5-1 仕事の種類〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総 数	正 規 の 職 員 ・ 従 業 員	会 社 等 の 役 員	む ・ （ ） ト ・ ハ ー ト ・ 日 雇 等 （ 契 約 職 員 ・ 派 遣 職 員 を 含 む ）	非 正 規 の 職 員 ・ 従 業 員	自 営 業	家 業 の 手 伝 い	内 職	そ の 他	無 回 答
総数		100.0 (588)	32.7	9.2	30.1	22.4	3.1	1.7	1.9	0.5	
身体障害者手帳の障害名 〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (87)	35.6	9.2	21.8	27.6	2.3	1.1	1.1	2.3	
	聴覚障害	100.0 (101)	43.6	3.0	30.7	12.9	4.0	3.0	3.0	1.0	
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (51)	31.4	9.8	31.4	13.7	9.8	2.0	3.9	－	
	肢体不自由（上肢）	100.0 (64)	34.4	6.3	34.4	23.4	1.6	－	－	－	
	肢体不自由（下肢）	100.0 (88)	22.7	8.0	37.5	23.9	3.4	3.4	1.1	－	
	肢体不自由（体幹）	100.0 (22)	22.7	18.2	36.4	22.7	－	－	－	－	
	肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）	100.0 (59)	50.8	3.4	37.3	5.1	3.4	1.7	－	－	
	内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓）	100.0 (177)	24.3	14.7	26.6	32.2	1.7	1.1	2.3	－	
年齢階級別	29歳以下	100.0 (20)	55.0	－	45.0	－	－	－	－	－	
	30～39歳	100.0 (66)	53.0	－	39.4	3.0	4.5	－	1.5	1.5	
	40～49歳	100.0 (104)	57.7	3.8	25.0	11.5	1.9	－	1.0	－	
	50～59歳	100.0 (111)	56.8	7.2	24.3	8.1	3.6	0.9	0.9	－	
	60歳以上	100.0 (287)	8.0	14.6	31.0	38.0	3.1	3.1	2.8	0.7	
	（再掲）65歳以上	100.0 (211)	2.4	16.6	28.9	43.6	2.8	3.8	2.4	0.5	

(注 1) 20 年度調査とは選択肢が異なるため、比較は行わない。

(注 2) 平衡機能障害は、母集団が少数であるため省略した。

（３）仕事をしていく上で困ること〔３つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である 423 人が対象

仕事をしていく上で困ることは、総数では「通勤時の混雑」の割合が最も高いが、障害の種類によって困ることが異なる

仕事をしていく上で「困ることがある」と答えた割合は 52.7%、「困ることは特にない」が 43.3%であった。困ることの内容は、「通勤時の混雑」の割合が 11.8%と最も高い。

障害名別にみると、視覚障害では「仕事の内容」（17.2%）、聴覚障害では「相手の言っていることが分からない」（46.2%）、音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害では「相手に対して、言いたい内容が伝わらない」（45.9%）の割合が他の障害よりも高くなっている。また、肢体不自由（体幹）及び肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では「通勤時の混雑」（29.4%、22.2%）、内部障害では「定期的な通院や健康管理との両立」（17.2%）の割合がそれぞれ他の障害よりも高いのが目立つ。

仕事の種類別にみると「困ることがある」の割合は正規の職員・従業員で高く 59.9%であった。（表Ⅱ-5-3 本文 55p）

問 仕事をしていく上で困ることは何ですか。

表Ⅱ-5-3 仕事をしていく上で困ること〔３つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

		総数	困ることがある	仕事の内容	人間関係（職場内でのいじめなど）	相手に対して、言いたい内容が伝わらない	相手の言っていることが分からない	職場の（物理的な）バリアフリー化が不十分	勤務時間・日数	通勤距離・時間	通勤時の混雑	定期的な通院や健康管理	急な体調の変化への配慮がない	その他	困ることは特にない	無回答
総数		100.0 (423)	52.7	9.5	10.9	10.2	10.6	7.3	3.8	6.1	11.8	9.2	5.7	7.6	43.3	4.0
身体障害者手帳の障害名（複数回答）別	視覚障害	100.0 (58)	51.7	17.2	10.3	5.2	3.4	12.1	1.7	6.9	15.5	3.4	3.4	6.9	43.1	5.2
	聴覚障害	100.0 (78)	66.7	12.8	25.6	19.2	46.2	9.0	1.3	2.6	3.8	3.8	2.6	10.3	29.5	3.8
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (37)	67.6	5.4	8.1	45.9	10.8	5.4	5.4	5.4	5.4	8.1	2.7	2.7	27.0	5.4
	肢体不自由（上肢）	100.0 (48)	58.3	14.6	10.4	8.3	4.2	10.4	6.3	6.3	12.5	10.4	4.2	6.3	41.7	-
	肢体不自由（下肢）	100.0 (60)	55.0	10.0	6.7	6.7	5.0	5.0	1.7	10.0	15.0	10.0	3.3	15.0	45.0	-
	肢体不自由（体幹）	100.0 (17)	64.7	-	11.8	17.6	-	5.9	-	17.6	29.4	-	5.9	23.5	35.3	-
	肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）	100.0 (54)	55.6	7.4	13.0	11.1	5.6	11.1	1.9	5.6	22.2	3.7	7.4	9.3	37.0	7.4
	内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓）	100.0 (116)	38.8	6.0	5.2	0.9	0.9	3.4	6.9	6.0	8.6	17.2	12.1	1.7	56.0	5.2
（仕事の種類）別	正規の職員・従業員	100.0 (192)	59.9	10.4	13.5	10.4	15.1	10.4	3.6	9.4	14.1	9.4	3.6	9.9	37.5	2.6
	会社等の役員	100.0 (54)	44.4	7.4	1.9	7.4	3.7	5.6	-	1.9	9.3	11.1	9.3	5.6	42.6	13.0
	非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員・派遣職員を含む））	100.0 (177)	47.5	9.0	10.7	10.7	7.9	4.5	5.1	4.0	10.2	8.5	6.8	5.6	49.7	2.8

2 経済基盤

(1) 収入の種類〔3つまでの複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

しゅうにゅう しゅるい ねんきん おんきゅう わりあい もっと たか
収入の種類は「年金・恩給」の割合が最も高く77.3%

平成 24 年中の収入の種類を聞いたところ、「年金・恩給」の割合が最も高く 77.3%、次いで「手当」20.8%、「賃金・給料」17.9%となっている。

年齢階級別にみると、「賃金・給料」の割合は、30 代から 50 代では 4 割を超え(41.2～49.5%)、総数(17.9%)を大幅に上回っている。(表Ⅱ-6-1 本文 62p)

と い へいせい ねんちゅう じしん しゅうにゅう しゅるい き
問 平成24年中のあなたご自身の収入の種類についてお聞きします。

表Ⅱ-6-1 収入の種類〔3つまでの複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総 数	賃 金 ・ 給 料	事 業 所 得	内 職 収 入	家 賃 ・ 地 代	利 子 ・ 配 当	仕 送 り ・ 小 遣 い ※	養 育 費 ・ 慰 謝 料	年 金 ・ 恩 給	生 活 保 護 費	手 当	雇 用 保 険	保 険 金 ・ 補 償 金	作 業 所 等 の 工 賃	そ の 他 の 収 入	収 入 は な か つ た	無 回 答
総数		100.0 (2,659)	17.9	3.0	0.6	5.9	1.8	1.4	0.0	77.3	7.4	20.8	0.4	0.6	1.9	1.9	3.1	1.1
身体障害者手帳の障害名 〔複数回答分〕別	視覚障害	100.0 (403)	15.9	4.0	0.2	5.2	1.5	1.2	－	76.4	9.9	23.1	1.0	－	1.2	1.0	2.2	1.0
	聴覚障害	100.0 (376)	22.6	1.9	1.6	4.0	1.9	2.4	－	76.9	5.1	17.3	－	－	2.1	2.4	2.7	2.9
	平衡機能障害	100.0 (15)	6.7	－	6.7	20.0	－	6.7	－	80.0	－	20.0	－	－	－	6.7	6.7	－
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (280)	16.4	1.4	0.4	7.9	2.5	1.1	0.4	76.1	8.2	13.9	－	1.4	0.7	1.4	4.3	－
	肢体不自由（上肢）	100.0 (398)	13.6	1.8	0.3	4.3	2.0	2.3	－	75.6	8.0	26.4	0.8	1.3	2.8	2.5	4.5	1.3
	肢体不自由（下肢）	100.0 (548)	13.0	1.8	0.9	5.8	1.1	1.6	－	80.5	7.5	19.5	－	0.9	1.5	2.9	3.1	1.1
	肢体不自由（体幹）	100.0 (216)	8.8	0.9	0.5	7.4	1.4	0.9	－	77.8	10.6	29.2	－	0.9	2.3	2.3	3.2	1.4
	肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）	100.0 (228)	24.1	0.9	1.8	0.4	0.9	3.1	－	77.2	4.8	52.2	1.8	－	13.6	1.8	4.4	1.8
	内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓）	100.0 (756)	17.3	4.6	0.3	8.1	2.6	0.7	－	79.2	7.8	16.3	0.3	0.8	0.4	1.5	2.5	0.4
年齢階級別	29歳以下	100.0 (87)	27.6	－	1.1	－	－	11.5	－	52.9	－	44.8	－	－	17.2	1.1	10.3	3.4
	30～39歳	100.0 (153)	41.2	0.7	1.3	0.7	1.3	0.7	0.7	61.4	4.6	42.5	2.0	2.0	7.8	2.0	4.6	1.3
	40～49歳	100.0 (198)	49.5	2.5	0.5	1.0	0.5	2.0	－	44.9	3.5	35.9	0.5	1.5	8.1	1.0	5.1	2.0
	50～59歳	100.0 (240)	43.8	2.5	0.4	5.0	1.3	1.7	－	44.6	9.6	31.7	0.4	2.1	1.7	2.1	6.3	1.7
	60～69歳	100.0 (567)	20.3	5.5	0.4	2.8	0.7	0.5	－	77.6	12.9	22.9	1.1	0.7	0.2	2.6	2.6	0.4
	70～79歳	100.0 (804)	6.7	3.5	0.9	7.8	2.4	0.9	－	90.4	7.0	14.1	－	0.1	0.2	1.7	1.5	0.5
	80歳以上	100.0 (610)	2.6	1.3	0.5	10.2	3.1	1.5	－	90.7	4.9	9.5	－	0.2	－	1.6	2.5	1.5
	（再掲）65歳以上	100.0 (1,729)	7.1	2.9	0.6	7.7	2.4	1.0	－	89.1	7.2	13.8	0.1	0.3	0.1	1.8	1.9	0.8
20年度		100.0 (2,762)	19.6	2.9	0.3	5.6	1.1	0.8	－	76.5	7.0	22.8	0.3	0.4	2.2	3.0	3.5	1.0

(注)※は 20 年度調査では「仕送り」としていた。

(2) 平成24年中の収入額（生活保護費を除く）—障害名（複数回答）、年齢階級別

ねんしゅう 年収は「50万円～100万円未満」の割合が最も高い

平成 24 年中の収入額は「50～100 万円未満」の割合が最も高く 19.2%、次いで「100～150 万円未満」が 15.3%である。(表Ⅱ-6-2 本文 66p)

問 あなたの平成24年中の収入額はいくらかですか。収入には、ご自身で働いて得た収入や就労継続支援事業所などからの収入のほか、あなたの年金・手当による収入や家族からの仕送りや小遣いを含みますが、生活保護費は除きます。

表Ⅱ-6-2 平成24年中の収入額（生活保護費を除く）一障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総 数	収 入 な し	5 0 万 円 未 満	5 0 万 円 未 満 1 0 万	1 0 万 円 未 満 1 5 0 万	1 5 0 万 円 未 満 2 0 万	2 0 万 円 未 満 2 5 0 万	2 5 0 万 円 未 満 3 0 万	3 0 万 円 未 満 4 0 万	4 0 万 円 未 満 5 0 万	5 0 万 円 未 満 6 0 万	6 0 万 円 未 満 7 0 万	7 0 万 円 以 上	無 回 答
総数		100.0 (2,659)	7.1	9.6	19.2	15.3	9.8	10.6	6.9	6.5	3.9	2.2	1.0	3.0	4.9
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (403)	7.4	9.4	18.9	20.3	7.9	7.7	6.2	5.7	4.0	2.0	1.0	3.2	6.2
	聴覚障害	100.0 (376)	6.4	9.3	18.1	18.4	9.6	7.7	6.6	7.2	5.1	2.9	1.1	1.3	6.4
	平衡機能障害	100.0 (15)	6.7	6.7	13.3	13.3	－	20.0	20.0	－	－	－	－	－	20.0
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (280)	9.3	8.2	15.4	13.9	7.9	12.9	7.1	11.1	5.0	2.1	0.4	2.8	3.9
	肢体不自由(上肢)	100.0 (398)	7.3	13.3	19.3	15.6	10.6	11.3	4.5	5.5	2.8	2.0	1.0	1.5	5.3
	肢体不自由(下肢)	100.0 (548)	6.4	12.2	23.7	15.5	8.9	11.7	4.6	5.5	2.6	1.8	0.7	1.9	4.6
	肢体不自由(体幹)	100.0 (216)	10.6	6.5	19.4	17.6	13.0	10.2	5.1	6.0	1.9	2.3	0.9	1.0	5.6
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (228)	5.3	7.5	23.7	19.7	11.0	12.7	4.4	4.4	1.3	1.8	0.4	0.8	7.0
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	100.0 (756)	6.6	9.4	17.2	11.5	11.0	11.1	10.2	6.3	4.8	2.4	1.5	4.9	3.2
年齢階級別	29歳以下	100.0 (87)	11.5	18.4	14.9	12.6	12.6	9.2	4.6	5.7	－	2.3	－	－	8.0
	30～39歳	100.0 (153)	7.8	7.8	19.0	17.0	8.5	11.1	3.9	8.5	5.9	3.9	1.3	0.7	4.6
	40～49歳	100.0 (198)	7.6	6.6	17.7	10.1	9.6	10.6	3.5	5.6	9.6	4.5	3.0	6.6	5.1
	50～59歳	100.0 (240)	10.4	11.3	15.0	10.4	9.2	5.0	4.2	6.3	7.5	5.0	2.1	8.4	5.4
	60～69歳	100.0 (567)	9.9	12.2	15.9	18.3	9.0	10.6	6.5	6.3	2.8	1.4	0.7	3.7	2.6
	70～79歳	100.0 (804)	5.2	7.8	22.6	16.7	10.9	12.4	8.5	5.6	2.9	1.2	0.5	1.5	4.1
	80歳以上	100.0 (610)	4.8	9.2	20.7	14.1	9.3	10.3	8.4	8.0	3.1	2.0	1.0	2.0	7.2
	〈再掲〉65歳以上	100.0 (1,729)	5.7	8.7	21.3	16.7	10.1	10.8	8.1	6.5	3.1	1.3	0.8	2.0	5.0
20年度		100.0 (2,762)	6.8	9.1	20.5	15.8	10.8	9.9	7.1	6.8	3.1	2.0	1.3	3.1	3.8

3 社会参加等

(1) 現在利用している施設に満足しているかー障害名〔複数回答〕、年齢階級別

※平日の日中主に職場（福祉的就労の施設）または通所施設（デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く）で過ごしている 163 人が対象

現在利用している施設に満足している（「とても満足している」＋「満足している」＋「だいたい満足している」）割合は 71.2%。そのうち、「とても満足している」割合は 20.9%

平日の日中主に職場（福祉的就労の施設）または通所施設（デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く）で過ごしている人で、現在利用している施設に「とても満足している」と答えた割合は 20.9%、「満足している」（25.2%）及び「だいたい満足している」（25.2%）と合わせると、7 割以上の人が満足していると回答している。一方で、不満である（「やや不満である」（4.3%）「不満である」（3.7%）「とても不満である」（1.2%））と回答した人は 9.2%であった。（表Ⅱ-7-2 本文 68p）

あなたは、現在利用している施設に対して満足していますか。

表Ⅱ-7-2 現在利用している施設に満足しているかー障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総数	とても満足している	満足している	だいたい満足している	ふつう	やや不満である	不満である	とても不満である	無回答
総数		100.0 (163)	20.9	25.2	25.2	15.3	4.3	3.7	1.2	4.3
			71.2				9.2			
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (18)	11.1	33.3	16.7	27.8	-	11.1	-	-
	聴覚障害	100.0 (12)	25.0	25.0	16.7	16.7	8.3	-	-	8.3
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (13)	38.5	23.1	23.1	-	-	-	7.7	7.7
	肢体不自由（上肢）	100.0 (26)	15.4	26.9	26.9	11.5	3.8	3.8	-	11.5
	肢体不自由（下肢）	100.0 (24)	12.5	20.8	37.5	16.7	-	-	-	12.5
	肢体不自由（体幹）	100.0 (33)	6.1	42.4	24.2	15.2	6.1	3.0	-	3.0
	肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）	100.0 (75)	25.3	18.7	24.0	17.3	5.3	5.3	1.3	2.7
	内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓）	100.0 (15)	26.7	20.0	26.7	13.3	13.3	-	-	-
年齢階級別	29歳以下	100.0 (36)	16.7	19.4	30.6	16.7	2.8	5.6	-	8.3
	30～39歳	100.0 (40)	20.0	37.5	20.0	10.0	5.0	2.5	-	5.0
	40～49歳	100.0 (25)	16.0	8.0	28.0	24.0	12.0	8.0	4.0	-
	50～59歳	100.0 (8)	25.0	25.0	12.5	25.0	-	-	-	12.5
	60～69歳	100.0 (9)	33.3	22.2	11.1	11.1	-	11.1	11.1	-
	70～79歳	100.0 (21)	23.8	23.8	33.3	14.3	4.8	-	-	-
	80歳以上	100.0 (24)	25.0	33.3	25.0	12.5	-	-	-	4.2
〔再掲〕65歳以上		100.0 (48)	25.0	29.2	27.1	14.6	2.1	-	-	2.1

(注) 平衡機能障害は、母集団が少数のため省略した。

(2) 社会参加をする上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

「電車やバスなどを使つての移動が不便」、^{でんしゃ}「道路や駅などの利用が不便」^{つか}の割合は20年度調査よりも減少^{いどう ふべん どうろ えき りよう ふべん わりあい}

社会参加をする上で妨げになっていることを聞いたところ、「電車やバスなどを使つての移動が不便」(19.0%)、「道路や駅などの利用が不便」(17.4%)の割合が高くなっている。一方で、「特にない」と答えた割合は46.6%であった。

平日の日中主に過ごしたところ別にみると、職場(福祉的就労の施設)で過ごしている人は「電車やバスなどを使つての移動が不便」(41.5%)、「道路や駅などの利用が不便」(39.6%)の割合が高いのが目立つ。

20年度調査と比べると「道路や駅などの利用が不便」の割合は3.1ポイント減少、「まわりの人の障害者に対する理解不足」も2.6ポイント減少した。(表Ⅱ-7-4 本文70p)

問 あなたが社会参加をする上で、妨げになっていることはありますか。

表Ⅱ-7-4 社会参加する上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

		総数	道路や駅などの利用が不便	電車やバスなどを使つての移動が不便	利用する建物の設備が整備されていない	点字版が古い、破損等により利用が不便	介助者がいない	情報がない	FAX番号やメールアドレスなど連絡方法の整備がされていないため、参加連絡などの問合せができない	まわりの人の障害者に対する理解不足	障害を理由に施設等の利用を拒否される	適切な指導者がいない	一緒に行く仲間がいない	通訳、文字表示、点字など配慮がされていない	その他	特にない	無回答
総数		100.0 (2,659)	17.4	19.0	5.8	0.4	8.8	4.7	2.1	8.2	0.9	2.1	7.0	2.7	11.1	46.6	3.2
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (403)	26.1	23.8	6.5	2.0	15.9	5.0	0.5	8.2	0.7	1.2	6.7	6.0	8.9	37.0	4.0
	聴覚障害	100.0 (376)	8.5	10.6	1.1	0.5	8.0	10.9	8.2	12.2	1.6	2.1	9.3	8.5	10.1	46.8	3.7
	平衡機能障害	100.0 (15)	20.0	13.3	－	－	20.0	6.7	－	13.3	－	6.7	20.0	－	13.3	40.0	－
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (280)	9.6	10.7	2.1	－	7.5	4.3	5.7	11.8	1.1	3.6	7.9	2.9	15.7	45.7	3.9
	肢体不自由(上肢)	100.0 (398)	19.6	27.9	9.0	－	12.1	3.3	1.8	7.0	0.3	1.5	7.3	0.3	12.6	39.4	3.5
	肢体不自由(下肢)	100.0 (548)	23.0	27.4	8.4	－	9.5	3.5	1.5	5.8	0.5	2.4	5.7	0.4	9.7	44.9	2.7
	肢体不自由(体幹)	100.0 (216)	26.4	27.3	9.7	－	18.5	3.7	0.9	7.9	0.5	0.9	7.9	0.9	16.2	32.4	4.2
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (228)	25.4	27.6	14.5	0.4	14.0	4.4	0.4	13.2	3.1	3.9	7.5	1.8	10.5	26.8	6.6
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	100.0 (756)	12.0	13.1	3.8	－	3.8	3.2	0.3	5.3	0.3	2.2	6.1	0.4	12.3	60.4	2.0
平日の日中主に過ごしたところ別	自分の家	100.0 (1,937)	17.7	19.8	5.3	0.4	9.3	4.3	1.8	7.0	0.6	2.2	7.6	2.1	12.3	47.2	2.2
	職場(福祉的就労の施設を除く)	100.0 (381)	12.6	12.1	6.6	0.3	1.6	6.6	5.0	13.9	1.8	1.6	5.0	6.6	3.7	56.4	2.1
	職場(福祉的就労の施設)	100.0 (53)	39.6	41.5	9.4	3.8	13.2	9.4	1.9	13.2	－	7.5	13.2	3.8	5.7	17.0	5.7
	学校	100.0 (23)	30.4	30.4	17.4	－	－	8.7	－	13.0	8.7	－	4.3	8.7	4.3	39.1	－
	通所施設(デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く)	100.0 (110)	20.9	24.5	5.5	－	22.7	2.7	－	10.0	0.9	1.8	5.5	0.9	12.7	34.5	4.5
	入所施設	100.0 (77)	13.0	15.6	9.1	－	16.9	3.9	1.3	5.2	－	－	3.9	－	18.2	36.4	13.0
	その他	100.0 (52)	17.3	15.4	5.8	－	5.8	5.8	1.9	13.5	1.9	－	1.9	3.8	21.2	36.5	5.8
20年度		100.0 (2,762)	20.5	21.5	7.8	0.3	7.9	5.0	1.8	10.9	0.9	1.6	6.3	2.6	12.7	41.8	5.0

4 情報の入手やコミュニケーションの手段

(1) 情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ること（視覚障害者）

〔2つまでの複数回答〕※視覚障害者 403 人が対象

視覚障害者が情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ることは、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」の割合が最も高い

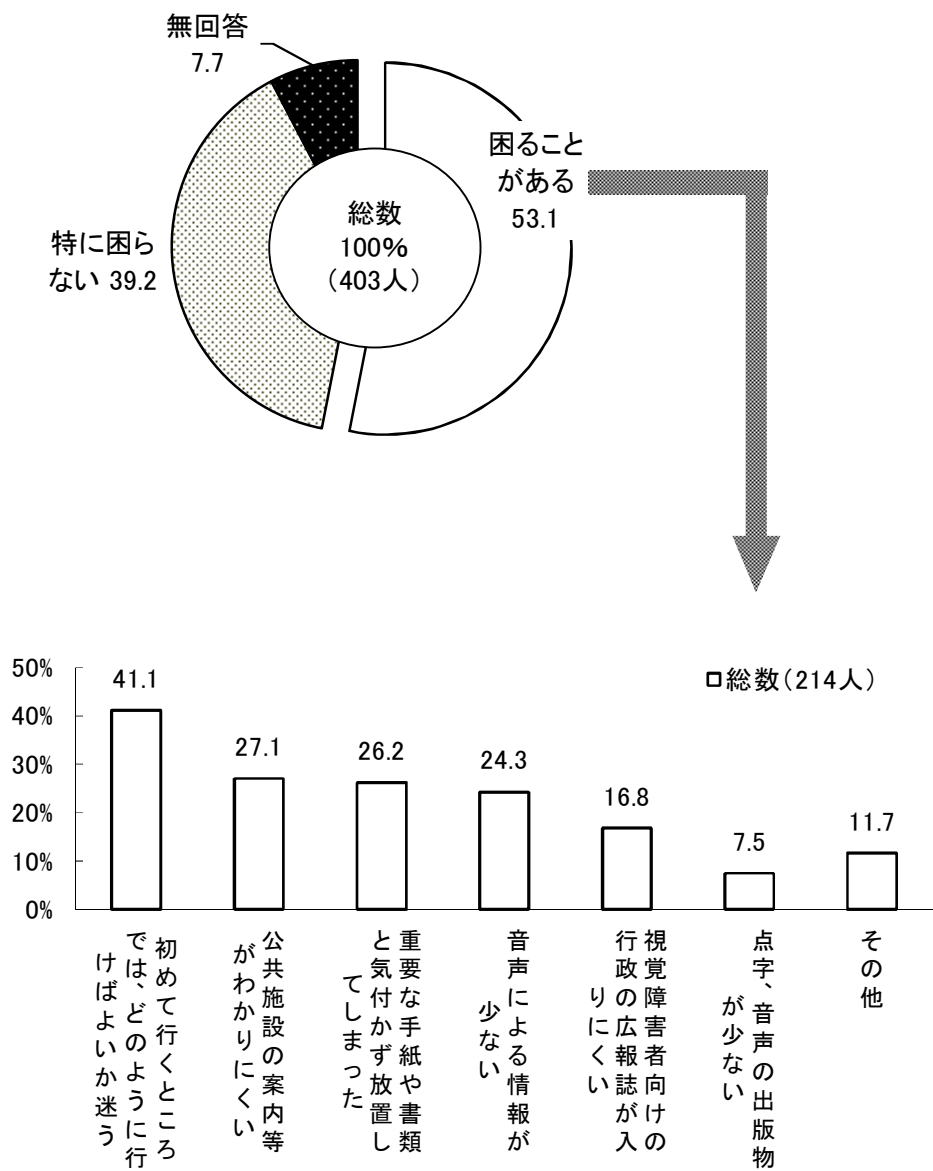
情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ることがあるか聞いたところ「困ることがある」と答えた割合は 53.1%と半数以上の人困ることがあると回答した。

困る内容で最も割合が高かったのは、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」で 41.1%であった。（図Ⅱ-8-2 本文 73p）

問 あなたは、情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ることがありますか。

図Ⅱ-8-2 情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ること（視覚障害者）

〔2つまでの複数回答〕



(2) 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること（聴覚障害者）

〔2つまでの複数回答〕※聴覚障害者 376 人が対象

聴覚障害者が情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることは、「車内等での緊急・非常時の情報が入りにくい」の割合が最も高く、次いで「まわりの人と意思疎通が不十分なため人間関係がうまくいかない」となっており、いずれも3割を超えている

情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることがあるか聞いたところ「困ることがある」と答えた割合は62.5%と6割以上の人があることがありと回答した。

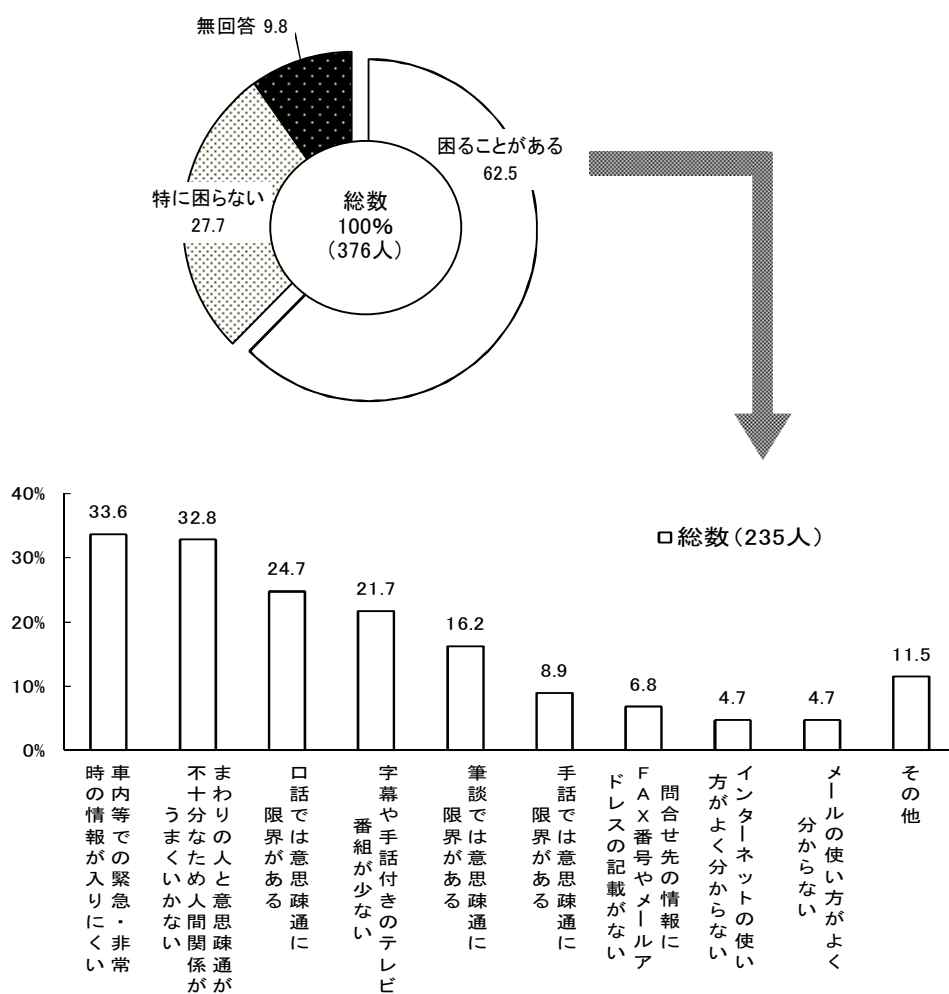
困る内容で最も割合が高かったのは「車内等での緊急・非常時の情報が入りにくい」(33.6%)、次いで「まわりの人との意思疎通が不十分なため人間関係がうまくいかない」(32.8%)となっており、いずれも3割を超えている。

困る内容で「その他」と回答した割合は11.5%となっており、その主な内容では「電話が聞き取りにくい、又は聞こえない」「補聴器を使用しても聞き取りにくい」等の意見がみられた。(図Ⅱ-8-4 本文 75p)

問 あなたは、情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることがありますか。

図Ⅱ-8-4 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること（聴覚障害者）

〔2つまでの複数回答〕



○ 知的障害者 810 人（回答者）の状況

※報告書の「第3章 知的障害者の状況（101p～161p）」からの主な結果の抜粋

※回答者別欄の「本人が回答」については、「本人が回答」及び「付き添いがいたが本人が自分の意見を回答」の合計、「本人以外が回答」については、「ほとんど付き添いの家族などの親族が回答」、「ほとんど付き添いの親族以外の人（施設職員等）が回答」、及び「調査対象者本人がおらず、家族や支援者が回答」の合計である。

1 就労の状況

（1）収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）－年齢階級、愛の手帳の程度別

「^{ふくしてきしゅうろう}福祉的就労をしている（^{しゅうろうけいぞくしえん}就労継続支援A型・B型、^{がた}就労移行支援）」割合が34.1%、「^{しごと}仕事をしている」割合が28.1%

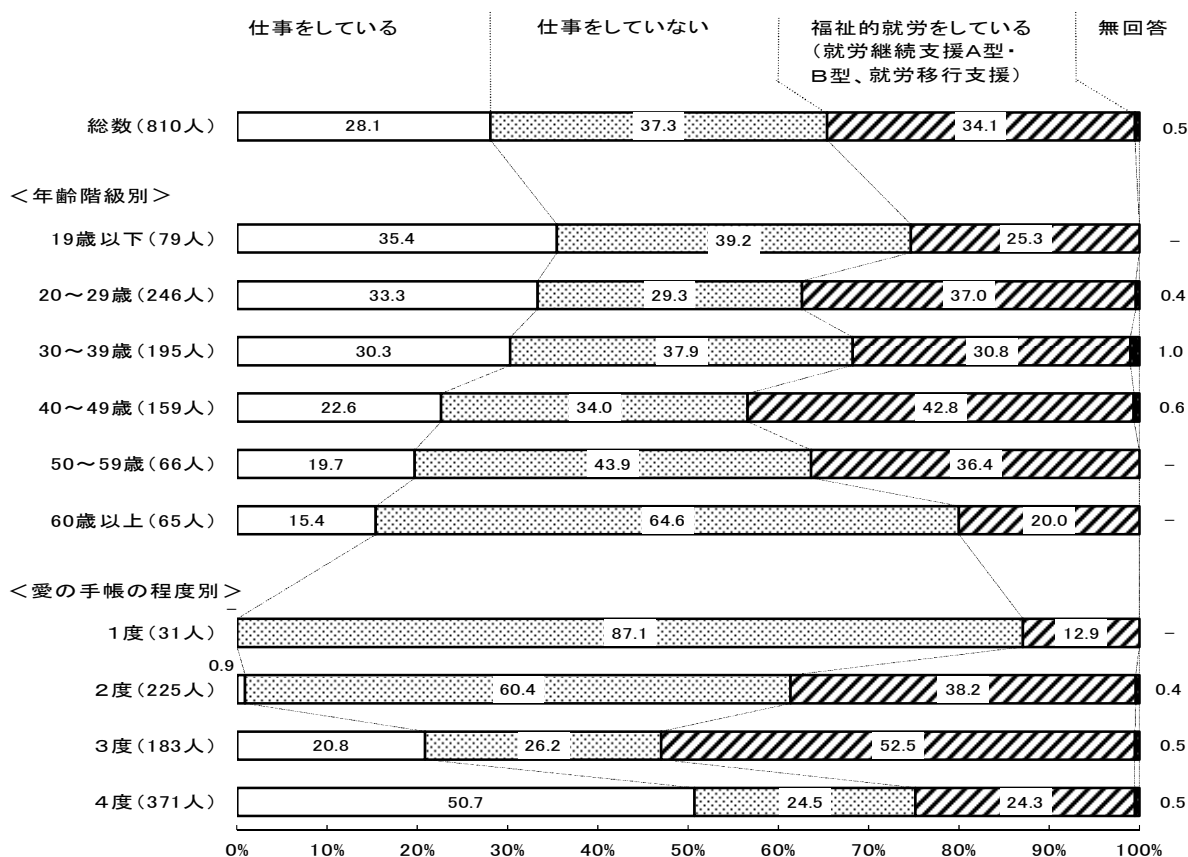
調査基準日現在、収入を伴う仕事をしているか聞いたところ、「福祉的就労をしている（就労継続支援A型・B型、就労移行支援）」割合は34.1%、「仕事をしている」割合は28.1%、「仕事をしていない」が37.3%であった。

年齢階級別にみると「仕事をしている」割合は、年齢が高くなるにつれて減少している。また、「福祉的就労をしている」割合は、40代で最も高く42.8%となっている。

愛の手帳の程度別にみると、4度では「仕事をしている」割合は50.7%、3度では「福祉的就労をしている」割合は52.5%とそれぞれ最も高くなっている。（図Ⅲ-5-1 本文118p）

問 あなたは平成25年10月16日（調査基準日）現在、^{しゅうにゅう}収入を伴う仕事をしていますか。

図Ⅲ-5-1 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）－年齢階級、愛の手帳の程度別



（注）20年度調査とは選択肢が異なるため、比較は行わない。

(2) 仕事の種類〔複数回答〕－年齢階級、愛の手帳の程度別

※調査基準日現在「仕事をしている」と回答した人 228 人が対象

「非正規の職員・従業員」の割合が最も高く 71.9%、「正規の職員・従業員」の割合は 22.8%

仕事の種類を聞いたところ、「非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・日雇等(契約職員・派遣職員を含む))」の割合が最も高く 71.9%、次いで「正規の職員・従業員」の割合が 22.8%であった。

年齢階級別にみると、「正規の職員・従業員」の割合は 40 代で最も高く 27.8%、次いで 30 代で 27.1%となっている。また、「非正規の職員・従業員」の割合は、すべての年代で 6 割 (61.1～76.8%) を超えている。(表Ⅲ-5-1 本文 119p)

問 仕事の種類は何ですか。

表Ⅲ-5-1 仕事の種類〔複数回答〕－年齢階級、愛の手帳の程度別

		総 数	正 規 の 職 員 ・ 従 業 員	会 社 等 の 役 員	約 職 員 ・ 正 規 の 職 員 ・ パ ー ト ・ ア ル バ イ ト ・ 日 雇 等 (契 約 職 員 ・ 派 遣 職 員 を 含 む)	自 営 業	家 業 の 手 伝 い	内 職	そ の 他	無 回 答
総数		100.0 (228)	22.8	1.3	71.9	0.9	0.9	0.4	－	1.8
年齢階級別	19歳以下	100.0 (28)	25.0	－	71.4	－	－	－	－	3.6
	20～29歳	100.0 (82)	19.5	1.2	76.8	－	1.2	－	－	1.2
	30～39歳	100.0 (59)	27.1	－	72.9	－	－	－	－	－
	40～49歳	100.0 (36)	27.8	2.8	61.1	2.8	2.8	－	－	2.8
	50～59歳	100.0 (13)	15.4	－	69.2	7.7	－	－	－	7.7
	60歳以上	100.0 (10)	10.0	10.0	70.0	－	－	10.0	－	－
の愛 程の 度手 帳 別	3度	100.0 (38)	21.1	－	76.3	－	2.6	－	－	－
	4度	100.0 (188)	23.4	1.6	71.3	1.1	0.5	0.5	－	1.6

(注 1) 愛の手帳の程度が 1 度は、該当者がいないため省略した。

(注 2) 愛の手帳の程度が 2 度は、母集団が 2 人のため省略した。

（３）仕事をしていく上で困ること〔３つまでの複数回答〕

－年齢階級、愛の手帳の程度、回答者別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である 219 人が対象

仕事をしていく上で困ることは「言いたいことの内容が相手に通じない」で 28.8%

仕事をしていく上で「困ることがある」と答えた割合は 57.1%、「困ることは特にない」は 41.6% であった。困ることの内容は、「言いたいことの内容が相手に通じない」の割合が 28.8% で最も高い。

年齢階級別にみると、「言いたいことの内容が相手に通じない」の割合は、40 代（39.4%）で高くなっている。（表Ⅲ-5-3 本文 124p）

問 仕事をしていく上で困ることは何ですか。

表Ⅲ-5-3 仕事をしていく上で困ること〔３つまでの複数回答〕

－年齢階級、愛の手帳の程度、回答者別

		総数	困ることがある	仕事の内容	人間関係（職場内でのいじめなど）	相手が伝わらない、言いたい内容が	言いたいことの内容が相手に通じない	職場の物理的なバリエーション	勤務時間・日数	通勤距離・時間	通勤時の混雑	定期的な通院や健康管理	急な体調の変化への配慮	その他	困ることは特にない	無回答
総数		100.0 (219)	57.1	8.7	24.2	27.9	28.8	0.9	6.8	5.0	6.4	2.3	5.5	3.7	41.6	1.4
年齢階級別	19歳以下	100.0 (27)	59.3	7.4	25.9	29.6	25.9	-	3.7	18.5	14.8	-	-	3.7	40.7	-
	20～29歳	100.0 (80)	60.0	10.0	28.8	33.8	32.5	1.3	6.3	2.5	6.3	2.5	3.8	2.5	37.5	2.5
	30～39歳	100.0 (59)	54.2	8.5	16.9	18.6	18.6	1.7	6.8	3.4	1.7	1.7	8.5	6.8	44.1	1.7
	40～49歳	100.0 (33)	57.6	6.1	24.2	33.3	39.4	-	9.1	-	9.1	6.1	9.1	3.0	42.4	-
	50歳以上	100.0 (20)	50.0	10.0	25.0	20.0	30.0	-	10.0	10.0	5.0	-	5.0	-	50.0	-
愛の手帳の程度別	3度	100.0 (37)	67.6	10.8	21.6	35.1	37.8	2.7	8.1	2.7	-	2.7	10.8	2.7	32.4	-
	4度	100.0 (181)	55.2	8.3	24.9	26.5	27.1	0.6	6.6	5.5	7.7	2.2	4.4	3.9	43.1	1.7
回答者別	本人が回答	100.0 (173)	53.8	8.1	23.7	25.4	26.0	-	6.9	5.2	8.1	2.3	6.4	2.9	45.1	1.2
	本人以外が回答	100.0 (46)	69.6	10.9	26.1	37.0	39.1	4.3	6.5	4.3	-	2.2	2.2	6.5	28.3	2.2

（注 1）愛の手帳の程度が 1 度は、該当者がいないため省略した。

（注 2）愛の手帳の程度が 2 度は、母集団が 2 人のため省略した。

（注 3）回答者別については、回答者が不明のものは省略した。

2 経済基盤

(1) 収入の種類〔3つ以内の複数回答〕－愛の手帳の程度別

しゅうにゆう しゅるい ねんきん おんきゅう わりあい もっと たか
収入の種類は「年金・恩給」の割合が最も高く65.7%

平成24年中の収入の種類を聞いたところ、「年金・恩給」の割合が最も高く65.7%、次いで「手当」37.7%、「賃金・給料」28.9%、「作業所等の工賃」27.9%となっている。

愛の手帳の程度別にみると、3度では「作業所等の工賃」(47.5%)が、4度では「賃金・給料」(50.1%)がそれぞれ総数を大きく上回っている。(表Ⅲ-6-1 本文131p)

と い へいせい ねんちゅう じしん しゅうにゆう しゅるい き
問 平成24年中のあなたご自身の収入の種類についてお聞きします。

表Ⅲ-6-1 収入の種類〔3つ以内の複数回答〕－愛の手帳の程度別

	総 数	賃 金 ・ 給 料	事 業 所 得	内 職 収 入	家 賃 ・ 地 代	利 子 ・ 配 当	仕 送 り ・ 小 遣 い ※	養 育 費 ・ 慰 謝 料	年 金 ・ 恩 給	生 活 保 護 費	手 当	雇 用 保 険	保 険 金 ・ 補 償 金	作 業 所 等 の 工 賃	そ の 他 の 収 入	収 入 は な か つ た	無 回 答
総数	100.0 (810)	28.9	-	0.2	0.5	0.1	3.7	-	65.7	4.2	37.7	0.2	0.2	27.9	0.9	5.3	2.2
1度	100.0 (31)	3.2	-	-	-	-	6.5	-	96.8	-	71.0	-	-	9.7	-	3.2	-
2度	100.0 (225)	2.7	-	0.4	-	0.4	1.8	-	81.8	1.8	50.7	-	0.4	31.1	0.4	4.9	1.8
3度	100.0 (183)	22.4	-	-	-	-	4.4	-	77.6	1.6	34.4	0.5	-	47.5	0.5	3.8	2.2
4度	100.0 (371)	50.1	-	0.3	1.1	-	4.3	-	47.4	7.3	28.6	0.3	0.3	17.8	1.3	6.5	2.7
20年度	100.0 (805)	29.6	0.1	-	1.0	0.1	2.0	0.1	69.1	2.7	38.3	0.2	0.4	29.9	2.0	4.3	0.6

(注)※は20年度調査では「仕送り」としていた。

(2) 平成24年中の収入額（生活保護費を除く）－年齢階級、愛の手帳の程度別

ねんしゅう 年 収 は「50～100万円未満」の割合が最も高い

平成24年中の収入額は「50～100万円未満」の割合が最も高く30.2%、次いで「100～150万円未満」が23.1%である。（表Ⅲ-6-2 本文134p）

問 あなたの平成24年中の収入額はいくらですか。収入には、ご自身で働いて得た収入や就労継続支援事業所などからの収入のほか、あなたの年金・手当による収入や仕送りや小遣いを含みますが、生活保護費は除きます。

表Ⅲ-6-2 平成24年中の収入額（生活保護費を除く）－年齢階級、愛の手帳の程度別

	総数	収入なし	50万円未満	50万円未満	100万円未満	100万円未満	200万円未満	200万円未満	300万円未満	400万円未満	500万円未満	無回答
総数	100.0 (810)	6.9	11.7	30.2	23.1	13.5	6.5	1.7	0.5	0.2	0.1	5.4
年齢階級別	19歳以下	100.0 (79)	41.8	27.8	11.4	13.9	—	—	—	—	—	5.1
	20～29歳	100.0 (246)	4.1	11.0	28.9	24.8	14.6	8.1	3.3	0.4	0.4	4.5
	30～39歳	100.0 (195)	2.6	7.7	32.8	21.5	20.0	8.7	1.0	0.5	—	5.1
	40～49歳	100.0 (159)	0.6	12.6	36.5	25.8	14.5	5.0	0.6	0.6	0.6	3.1
	50～59歳	100.0 (66)	3.0	6.1	31.8	25.8	12.1	7.6	1.5	—	—	12.1
	60歳以上	100.0 (65)	7.7	10.8	33.8	23.1	4.6	4.6	3.1	1.5	—	9.2
愛の手帳の程度別	1度	100.0 (31)	3.2	9.7	16.1	22.6	22.6	16.1	3.2	—	—	6.5
	2度	100.0 (225)	4.9	11.1	32.9	22.2	16.4	5.8	0.4	—	—	6.2
	3度	100.0 (183)	4.4	10.4	43.2	24.0	7.1	4.4	0.5	0.5	—	5.5
	4度	100.0 (371)	9.7	12.9	23.5	23.2	14.0	7.3	3.0	0.8	0.5	4.9
20年度		100.0 (805)	4.5	11.1	32.8	26.0	12.0	5.2	2.2	1.6	0.1	4.5

3 社会参加等

現在利用している施設に満足しているか一年齢階級、愛の手帳の程度、回答者別

※平日の日中主に職場（福祉的就労の施設）または通所施設（デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く）で過ごしている 359 人が対象

げんざいりよう しせつ まんぞく
現在利用している施設に満足している（「とても満足している」＋「満足している」＋「だいたい満足している」）割合は 75.4%。そのうち、「とても満足している」割合は 22.8%
まんぞく わりあい まんぞく わりあい

平日の日中主に職場（福祉的就労の施設）または通所施設（デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く）で過ごしている人で、現在利用している施設に「とても満足している」と答えた割合は 22.8%、「満足している」（31.2%）及び「だいたい満足している」（21.4%）と合わせると、75.4%の人が満足していると回答している。一方で、不満である（「やや不満である」（4.7%）、「不満である」（2.2%）、「とても不満である」（0.6%））と答えた割合は 7.5%であった。

回答者別にみると、不満である（「やや不満である」「不満である」「とても不満である」の合計）と答えた割合は、「本人が回答」した場合（16.9%）の方が、「本人以外が回答」した場合（3.6%）よりも 10 ポイント以上高くなっている。（表Ⅲ-7-1 本文 136p）

とい げんざいかよ しせつ まんぞく
問 あなたは、現在通っている施設に満足していますか。

表Ⅲ-7-1 現在利用している施設に満足しているか一年齢階級、愛の手帳の程度、回答者別

		総 数	と も も 満 足 し て い る	満 足 し て い る	だ い た い 満 足 し て い る	ふ つ う	や や 不 満 で あ る	不 満 で あ る	と も も 不 満 で あ る	無 回 答
総数		100.0 (359)	22.8	31.2	21.4	13.9	4.7	2.2	0.6	3.1
			75.4					7.5		
年 齢 階 級 別	19歳以下	100.0 (26)	26.9	38.5	15.4	7.7	—	3.8	3.8	3.8
	20～29歳	100.0 (132)	19.7	29.5	24.2	15.2	4.5	3.0	—	3.8
	30～39歳	100.0 (80)	21.3	28.8	22.5	17.5	5.0	—	—	5.0
	40～49歳	100.0 (79)	22.8	32.9	21.5	11.4	7.6	2.5	—	1.3
	50～59歳	100.0 (28)	28.6	32.1	17.9	14.3	3.6	3.6	—	—
	60歳以上	100.0 (14)	42.9	35.7	7.1	7.1	—	—	7.1	—
愛 の 手 帳 の 程 度 別	1度	100.0 (22)	18.2	45.5	22.7	4.5	—	4.5	—	4.5
	2度	100.0 (153)	22.9	32.7	22.9	16.3	2.0	0.7	—	2.6
	3度	100.0 (96)	27.1	30.2	25.0	10.4	3.1	—	1.0	3.1
	4度	100.0 (88)	19.3	26.1	14.8	15.9	12.5	6.8	1.1	3.4
回 答 者 別	本人が回答	100.0 (107)	24.3	26.2	16.8	12.1	10.3	4.7	1.9	3.7
	本人以外が回答	100.0 (251)	21.9	33.5	23.5	14.7	2.4	1.2	—	2.8
							16.9			
							3.6			

(注)回答者別については、回答者が不明のものは省略した。

4 情報の入手やコミュニケーションの手段

情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること〔2つまでの複数回答〕

一年齢階級、愛の手帳の程度、回答者別

じょうほうにゆうしゆ
 情報入手やコミュニケーションをとる上で困ることは「まわりのひと意思疎通が不十分な
 ためにんげんかんけい
 ため人間関係がうまくいかない」の割合が最も高い
 わりあい
 もっと
 たか

情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることがあるか聞いたところ「困ることがある」と答えた割合は63.1%と6割以上の人が困ることがあると回答した。

「困ることがある」理由では、「まわりの人と意思疎通が不十分なため人間関係がうまくいかない」(32.7%)、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」(30.4%)の割合が高い。

回答者別にみると「困ることがある」の割合は、本人が回答(58.3%)よりも本人以外が回答(67.0%)の割合の方が8.7ポイント高くなっている。(表Ⅲ-8-2 本文142p)

とい
 問
 あなたは、
 じょうほう
 情報
 にゆうしゆ
 入手したり、
 コミュニケーションをとる
 うえ
 こま
 上で困ることがあります

表Ⅲ-8-2 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること〔2つまでの複数回答〕

一年齢階級、愛の手帳の程度、回答者別

		総数	困ることがある	公共施設に設けられた案内等がある	迷うところで行くとき、初めて行くところでは、	うまくなめと人意思疎通が	まわりの方の人間関係が	インターネットの使い方が	よくわかる使い方が	その他	特に困らない	無回答
総数		100.0 (810)	63.1	8.0	30.4	32.7	5.9	3.3	12.7	30.6	6.3	
年齢階級別	19歳以下	100.0 (79)	64.6	11.4	39.2	36.7	5.1	2.5	6.3	32.9	2.5	
	20～29歳	100.0 (246)	69.9	9.3	34.6	43.1	4.5	3.7	10.6	24.4	5.7	
	30～39歳	100.0 (195)	59.0	6.7	27.2	27.2	7.2	3.1	12.8	33.3	7.7	
	40～49歳	100.0 (159)	60.4	4.4	23.9	28.3	6.9	3.8	18.9	34.6	5.0	
	50～59歳	100.0 (66)	60.6	12.1	39.4	25.8	4.5	-	12.1	31.8	7.6	
	60歳以上	100.0 (65)	56.9	7.7	20.0	23.1	7.7	6.2	13.8	32.3	10.8	
愛の手帳の程度別	1度	100.0 (31)	64.5	12.9	9.7	22.6	-	-	35.5	22.6	12.9	
	2度	100.0 (225)	69.8	9.3	18.2	36.9	1.3	1.3	28.0	20.4	9.8	
	3度	100.0 (183)	70.5	9.8	37.2	43.7	9.3	2.7	8.7	25.1	4.4	
	4度	100.0 (371)	55.3	5.9	36.1	25.6	7.5	5.1	3.5	40.2	4.6	
回答者別	本人が回答	100.0 (372)	58.3	8.1	37.4	29.0	8.1	4.3	3.8	37.6	4.0	
	本人以外が回答	100.0 (437)	67.0	8.0	24.3	35.7	4.1	2.5	20.4	24.7	8.2	

(注) 回答者別については、回答者が不明のものは省略した。

5 その他の福祉サービス等

地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

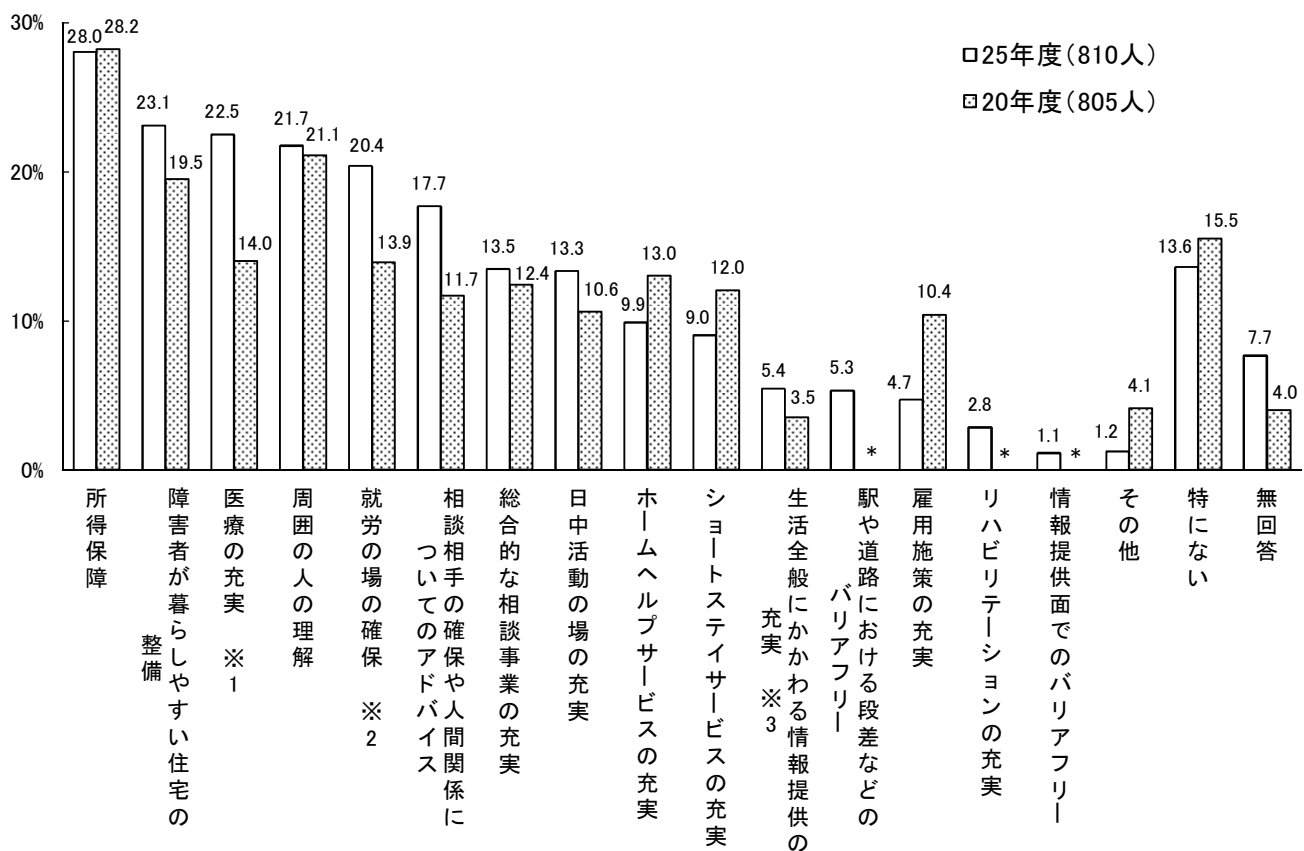
ちい せい かつ うえ いりよう じゅうじつ ひつよう こた わりあい ねん だちよう さ
地域生活をする上で「医療の充実」が必要と答えた割合は、20年度調査よりも 8.5 ポイント
じょうしょう
上昇し 22.5%

地域生活をしたり、しようとする上で、必要な福祉サービス等は何か聞いたところ「所得保障」の割合が 28.0%と最も高く、次いで「障害者が暮らしやすい住宅の整備」が 23.1%であった。

20 年度調査との比較では、「医療の充実」の割合が 8.5 ポイント増加し 22.5%、また、「雇用施策の充実」は 5.7 ポイント減少し 4.7%となった。（図Ⅲ-11-1 本文 155p）

問 あなたが、ちい せい かつ うえ ひつよう ふくし どう なん
地域生活をしたり、しようとする上で、必要な福祉サービス等は何ですか。

図Ⅲ-11-1 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕



(注 1) 20 年度調査では、※1 は「医療やリハビリテーションの充実」としていた。

(注 2) 20 年度調査では、※2 は「授産施設などの就労の場の確保」としていた。

(注 3) 20 年度調査では、※3 は「情報提供の充実」としていた。

(注 4) * は 20 年度調査時選択肢がなかったもの。

○ 精神障害者 537 人（回答者）の状況

※報告書の「第4章 精神障害者の状況（163p～222p）」からの主な結果の抜粋

1 就労の状況

（1）収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）－年齢階級別

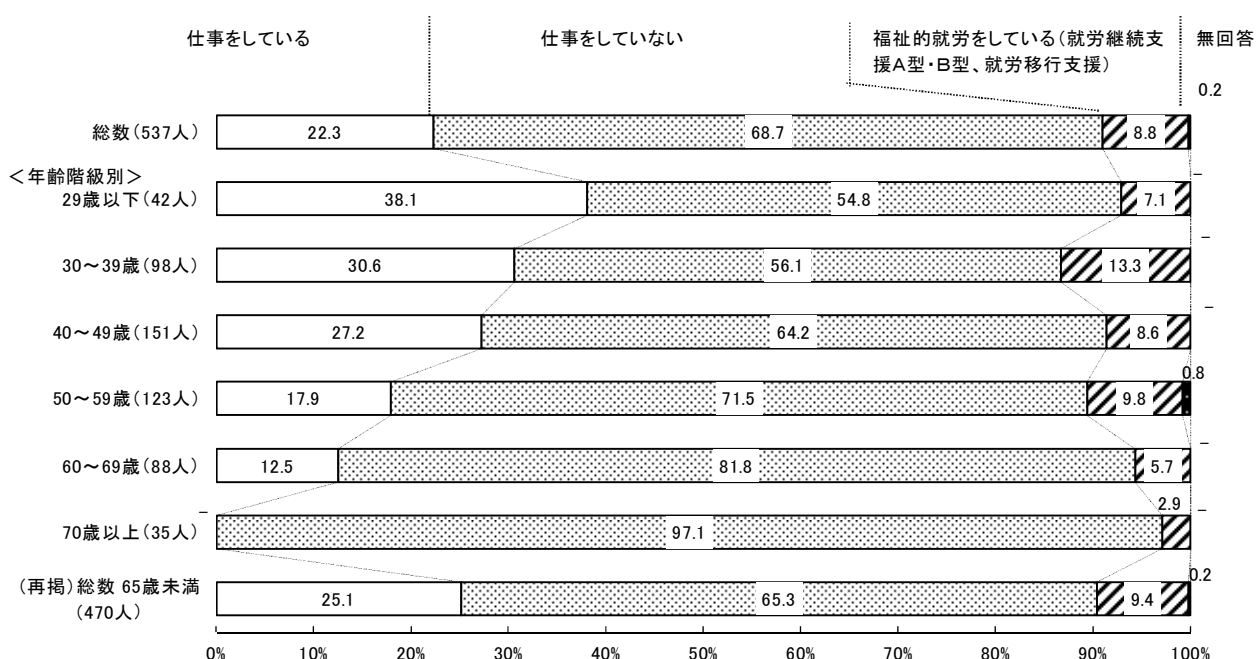
「^{しごと}仕事をしている」^{ひと}人の割合は、^{さいみん}65歳未満で 25.1%

調査基準日現在、収入を伴う仕事をしているか聞いたところ、「仕事をしている」割合は 22.3%、「仕事をしていない」が 68.7%、「福祉的就労をしている」は 8.8%であった。

年齢階級別にみると、65 歳未満で「仕事をしている」人の割合は 25.1%となっている。（図IV-5-1 本文 184p）

問 あなたは平成25年10月16日（調査基準日）現在、収入を伴う仕事をしていきますか。

図IV-5-1 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）－年齢階級別



(2) 仕事の種類〔複数回答〕－年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の障害の程度別

※仕事をしている 120 人が対象

「^ひ非^{せい}正^き規^のの^し職^{いん}員[・]・^{じゅうぎょういん}従^{わりあい}業^も員^{たか}」の割合が最 も高く 72.5%、「正^{せい}規^のの^し職^{いん}員[・]・^{じゅうぎょういん}従^{わりあい}業^も員^{たか}」の割合は 14.2%

仕事の種類を聞いたところ、「正^{せい}規^のの^し職^{いん}員[・]・^{じゅうぎょういん}従^{わりあい}業^も員^{たか}」の割合が 14.2%、「非^ひ正^{せい}規^のの^し職^{いん}員[・]・^{じゅうぎょういん}従^{わりあい}業^も員^{たか}（パート・アルバイト・日雇等（契約職員・派遣職員を含む））」が 72.5%であった。

年齢階級別にみると、40 代の「正^{せい}規^のの^し職^{いん}員[・]・^{じゅうぎょういん}従^{わりあい}業^も員^{たか}」の割合が 26.8%となっており、総数(14.2%)より 10 ポイント以上高くなっている。（表Ⅳ-5-1 本文 186p）

問 ^{しごと}仕事の種類は何ですか。

表Ⅳ-5-1 仕事の種類〔複数回答〕－年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の障害の程度別

		総 数	正 規 の 職 員 ・ 従 業 員	会 社 等 の 役 員	職 員 ・ 非 正 規 の 職 員 ・ ア ル バ イ ト ・ 日 雇 等 （ 契 約 職 員 ・ 派 遣 職 員 を 含 む ）	自 営 業	家 業 の 手 伝 い	内 職	そ の 他
総数		100.0 (120)	14.2	0.8	72.5	5.0	2.5	3.3	3.3
年 齢 階 級 別	29歳以下	100.0 (16)	12.5	－	87.5	－	－	－	－
	30～39歳	100.0 (30)	6.7	－	76.7	3.3	3.3	6.7	3.3
	40～49歳	100.0 (41)	26.8	2.4	63.4	2.4	2.4	－	4.9
	50～59歳	100.0 (22)	9.1	－	77.3	9.1	4.5	4.5	－
	60歳以上	100.0 (11)	－	－	63.6	18.2	－	9.1	9.1
程 度 害 別 の	2級	100.0 (47)	4.3	－	83.0	4.3	2.1	6.4	2.1
	3級	100.0 (69)	21.7	1.4	65.2	5.8	2.9	1.4	2.9

（注）障害の程度が 1 級は、母集団が少数であるため省略した。

(3) 仕事をしていく上で困ること〔複数回答〕－性別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である 104 人が対象

仕事をしていく上で困ることは、男女ともに「人間関係（職場内でのいじめなど）」の割合が高い（男 30.5%、女 37.8%）

仕事をしていく上で「困ることがある」と答えた割合は 71.2%、「困ることは特にない」は 25.0%であった。性別でみると、男女ともに「人間関係（職場内でのいじめなど）」の割合が高く、男性 30.5%、女性 37.8%となった。（表Ⅳ-5-4 本文 191p）

問 仕事をしていく上で困ることは何ですか。

表Ⅳ-5-4 仕事をしていく上で困ること〔複数回答〕－性別

	総数	困ることがある	仕事の内容	人間関係（職場内）	相対的な内容が伝わらない	相対的な内容が伝わらない	職場内でのいじめなど	勤務時間・日数	通勤距離・時間	通勤時の混雑	定期的な通院や健康管理	急な体調の変化への対応	その他	困ることは特にない	無回答
総数	100.0 (104)	71.2	22.1	33.7	14.4	7.7	1.0	16.3	5.8	5.8	17.3	20.2	5.8	25.0	3.8
男	100.0 (59)	66.1	23.7	30.5	13.6	10.2	1.7	6.8	3.4	3.4	13.6	16.9	5.1	27.1	6.8
女	100.0 (45)	77.8	20.0	37.8	15.6	4.4	-	28.9	8.9	8.9	22.2	24.4	6.7	22.2	-

2 経済基盤

(1) 収入の種類〔3つまでの複数回答〕

－年齢階級、平成24年中の収入額（生活保護費を除く）、診断名〔複数回答〕別

収入の種類は「年金・恩給」の割合が46.6%、「生活保護費」が32.6%

平成24年中の収入の種類（複数回答）は、「年金・恩給」の割合が46.6%と最も高く、次いで「生活保護費」の割合が32.6%となっている。

「年金・恩給」の割合を年間収入額別にみると100～150万円未満で83.3%となっている。（表IV-6-1 本文196p）

問 平成24年中のあなたご自身の収入の種類についてお聞きします。

表IV-6-1 収入の種類〔3つまでの複数回答〕

－年齢階級、平成24年中の収入額（生活保護費を除く）、診断名〔複数回答〕別

		総数	賃金・給料	事業所得	内職収入	家賃・地代	利子・配当	仕送り・小遣い※	養育費・慰謝料	年金・恩給	生活保護費	手当	雇用保険	保険金・補償金	作業所等の工賃	その他の収入	収入はなかった	無回答
総数		1000 (537)	19.6	0.7	0.4	0.7	0.6	10.1	0.2	46.6	32.6	6.1	0.6	0.6	7.6	2.4	9.5	1.3
年齢階級別	29歳以下	100.0 (42)	35.7	-	-	-	-	14.3	-	35.7	19.0	9.5	-	-	2.4	4.8	19.0	2.4
	30～39歳	100.0 (98)	26.5	1.0	1.0	-	-	16.3	1.0	41.8	20.4	6.1	1.0	-	13.3	1.0	13.3	-
	40～49歳	100.0 (151)	23.2	-	-	-	1.3	9.3	-	37.7	38.4	6.6	1.3	0.7	6.0	1.3	9.9	2.0
	50～59歳	100.0 (123)	17.1	0.8	-	-	-	10.6	-	44.7	37.4	5.7	-	1.6	8.1	2.4	8.1	1.6
	60歳以上	100.0 (123)	6.5	1.6	0.8	3.3	0.8	4.1	-	66.7	35.0	4.9	-	-	6.5	4.1	4.1	0.8
	(再掲)総数 65歳以上	100.0 (67)	3.0	1.5	-	1.5	1.5	3.0	-	68.7	35.8	4.5	-	-	4.5	3.0	6.0	-
(生活保護費を 除く)年間収入 額別	収入なし	100.0 (136)	-	-	-	-	-	0.7	-	-	62.5	-	-	-	-	-	36.8	-
	50万円未満	100.0 (81)	18.5	-	2.5	-	1.2	22.2	1.2	34.6	44.4	16.0	1.2	1.2	21.0	4.9	-	-
	50～100万円未満	100.0 (149)	14.1	-	-	0.7	0.7	12.8	-	79.2	18.8	4.7	-	0.7	9.4	1.3	-	-
	100～150万円未満	100.0 (60)	35.0	-	-	1.7	1.7	8.3	-	83.3	16.7	10.0	-	-	8.3	1.7	-	-
	150～200万円未満	100.0 (33)	39.4	3.0	-	-	-	9.1	-	69.7	9.1	6.1	-	-	12.1	3.0	3.0	-
	200～300万円未満	100.0 (27)	55.6	3.7	-	3.7	-	11.1	-	63.0	7.4	3.7	3.7	-	-	3.7	-	-
	300万円以上	100.0 (21)	76.2	9.5	-	-	-	9.5	-	28.6	-	9.5	4.8	4.8	-	9.5	-	-
診断名〔複数 回答〕別	アルコール・薬物依存症	100.0 (21)	19.0	-	-	-	-	4.8	-	28.6	61.9	-	-	-	-	9.5	4.8	4.8
	統合失調症	100.0 (236)	15.7	0.8	0.8	0.8	0.4	9.3	-	51.7	32.6	4.2	0.4	0.8	12.3	2.5	9.3	1.3
	そううつ病、うつ病	100.0 (210)	21.4	1.4	0.5	1.0	-	11.0	0.5	41.4	36.2	6.7	1.4	0.5	5.2	1.9	9.5	1.0
	人格障害	100.0 (13)	23.1	-	-	-	-	15.4	-	23.1	53.8	7.7	-	7.7	7.7	-	-	-
	てんかん	100.0 (45)	24.4	-	-	-	2.2	4.4	-	42.2	33.3	6.7	-	-	4.4	-	15.6	2.2
	発達障害(自閉症、学習障害など)	100.0 (36)	36.1	-	-	-	-	13.9	-	36.1	13.9	11.1	2.8	-	8.3	-	16.7	-
	高次脳機能障害	100.0 (13)	38.5	-	-	-	-	7.7	-	53.8	15.4	15.4	-	-	7.7	-	7.7	7.7
	その他	100.0 (75)	13.3	-	-	-	1.3	8.0	-	45.3	40.0	9.3	-	-	4.0	4.0	5.3	2.7
20年度		100.0 (529)	17.2	0.8	0.2	1.1	1.1	2.6	0.6	52.9	31.0	9.1	0.9	0.4	8.5	6.0	8.9	1.7

(注)※は20年度調査では「仕送り」としていた。

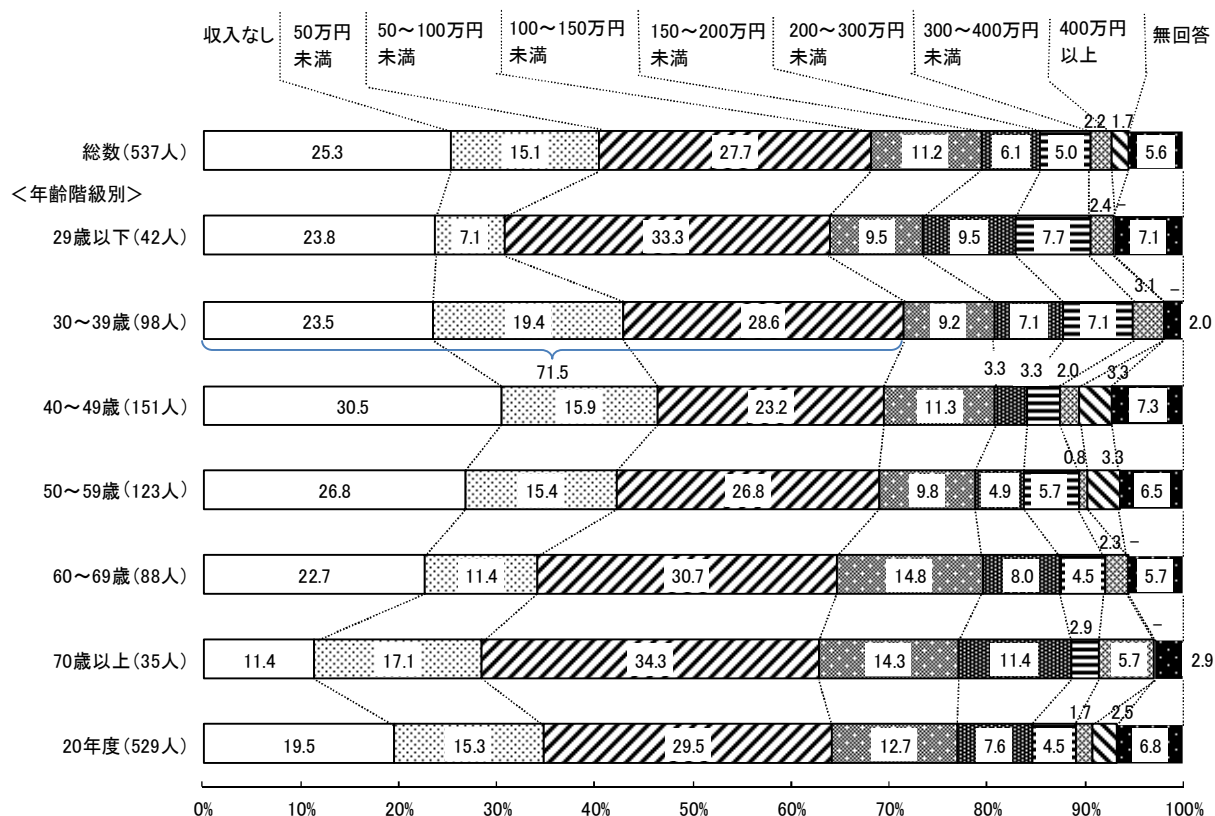
(2) 平成24年中の収入額（生活保護費を除く）－年齢階級別

ねんしゅう はんえんみまん わりあい もっと たか
年 収 は 「50～100万円未満」 の 割 合 が 最 も 高 い

平成24年中の収入額は「50～100万円未満」の割合が高く27.7%である。年齢階級別にみると30代では「収入なし」も含めた100万円未満の割合が7割を超えている（71.5%）。（図IV-6-3 本文198p）

問 あなたの平成24年中の収入額はいくらですか。収入には、ご自身で働いて得た収入や作業所などからの収入のほか、あなたの年金・手当による収入や家族からの仕送りや小遣いを含みますが、生活保護費は除きます。

図IV-6-3 平成24年中の収入額（生活保護費を除く）－年齢階級別



3 情報の入手やコミュニケーションの手段

情報を入手したりコミュニケーションをとる上で困ること〔2つまでの複数回答〕

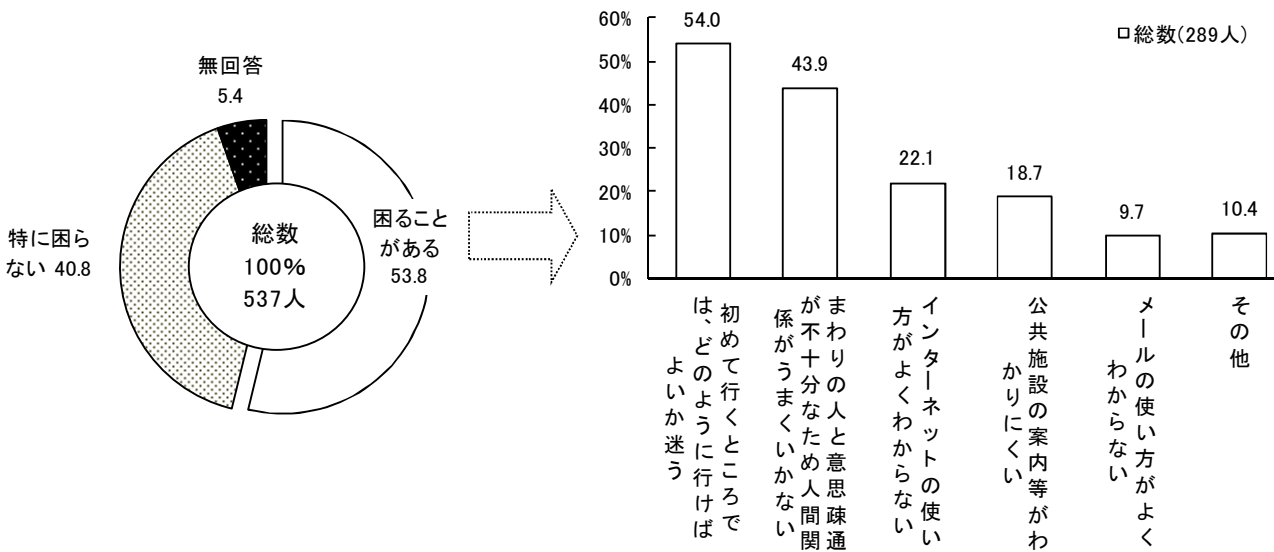
情報を入手したりコミュニケーションをとる上で困ることは、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」の割合が最も高い

情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」と答えた割合は53.8%と半数以上の人困ることがあると回答した。

「困ることがある」の内容で最も割合が高かったのは、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」で54.0%であった。(図IV-8-2 本文 206p)

問 あなたは、情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることがありますか。

図IV-8-2 情報を入手したりコミュニケーションをとる上で困ること



4 その他の福祉サービス等

今後利用したい福祉サービス等〔複数回答〕

－年齢階級、診断名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

今後利用したい福祉サービス等は、「相談サービス（地域活動支援センターなど）」の割合が最も高く、20年度調査よりも2.3ポイント増加し22.0%

今後利用したい福祉サービス等を聞いたところ、「相談サービス」（22.0%）、「就労支援サービス」（20.5%）、「情報提供の充実」（17.9%）の割合が高く、20年度調査と比べて「相談サービス」の割合が2.3ポイント増加した。

年齢階級別にみると「就労支援サービス」の割合は30代で最も高く40.8%となっている。（表IV-10-3 本文218p）

問 あなたが、今後利用したい福祉サービス等は何ですか。

表IV-10-3 今後利用したい福祉サービス等〔複数回答〕

－年齢階級、診断名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

		総数	ホームヘルプサービス	通所サービス（作業所、授産施設など）	ショートステイサービス	活動支援センター（地域活動支援センターなど）	相談サービス（就業・生活支援センターなど）	就労支援サービス（障害者就業・生活支援センターなど）	情報提供の充実	訪問看護	デイケア	マン・メンタルケア	苦情処理（オンブズマン）	自助グループ活動	その他	特になし	無回答
総数		100.0 (537)	14.7	5.8	6.3	22.0	20.5	17.9	8.4	10.8	4.7	4.1	4.1	33.9	5.6		
年齢階級別	29歳以下	100.0 (42)	7.1	4.8	7.1	16.7	28.6	26.2	9.5	11.9	4.8	2.4	-	21.4	14.3		
	30～39歳	100.0 (98)	5.1	12.2	4.1	23.5	40.8	28.6	3.1	4.1	4.1	4.1	8.2	27.6	2.0		
	40～49歳	100.0 (151)	13.2	6.6	4.6	23.2	20.5	20.5	7.3	9.3	2.6	6.6	2.6	33.8	6.6		
	50～59歳	100.0 (123)	15.4	4.1	5.7	26.0	16.3	12.2	5.7	10.6	6.5	4.1	0.8	39.8	6.5		
	60～69歳	100.0 (88)	23.9	2.3	5.7	19.3	8.0	11.4	14.8	17.0	5.7	1.1	9.1	36.4	4.5		
	70歳以上	100.0 (35)	31.4	-	22.9	11.4	-	2.9	20.0	20.0	5.7	2.9	2.9	40.0	-		
	（再掲）65歳以上	100.0 (67)	29.9	3.0	16.4	16.4	7.5	4.5	19.4	20.9	6.0	1.5	4.5	34.3	1.5		
診断名（複数回答）別	アルコール・薬物依存症	100.0 (21)	14.3	4.8	9.5	23.8	14.3	19.0	-	19.0	9.5	9.5	-	33.3	9.5		
	統合失調症	100.0 (236)	17.8	6.4	7.6	22.0	20.3	18.2	11.9	12.3	5.1	4.2	4.7	32.6	7.2		
	そううつ病、うつ病	100.0 (210)	13.3	5.2	4.8	25.2	22.4	20.5	8.6	9.5	5.2	4.3	5.2	29.0	3.3		
	人格障害	100.0 (13)	7.7	15.4	-	46.2	30.8	7.7	-	23.1	7.7	7.7	-	23.1	7.7		
	てんかん	100.0 (45)	8.9	2.2	6.7	22.2	15.6	15.6	8.9	2.2	6.7	-	-	44.4	-		
	発達障害（自閉症、学習障害など）	100.0 (36)	11.1	5.6	2.8	27.8	33.3	33.3	8.3	13.9	8.3	5.6	5.6	27.8	-		
	高次脳機能障害	100.0 (13)	-	-	-	15.4	38.5	15.4	-	7.7	-	-	-	53.8	-		
	その他	100.0 (75)	12.0	5.3	6.7	25.3	16.0	17.3	4.0	16.0	6.7	6.7	4.0	36.0	4.0		
平日の日中主に過ごしたところ別	自分の家	100.0 (358)	16.2	4.5	6.7	20.9	15.6	16.8	8.7	10.1	4.2	4.2	3.6	36.9	5.6		
	職場（福祉的就労の施設を除く）	100.0 (62)	6.5	6.5	1.6	27.4	35.5	22.6	3.2	3.2	6.5	3.2	4.8	32.3	-		
	職場（福祉的就労の施設）	100.0 (28)	10.7	7.1	3.6	17.9	28.6	25.0	-	3.6	-	3.6	3.6	35.7	10.7		
	通所施設（生活介護・自立訓練事業所など）	100.0 (14)	14.3	28.6	28.6	28.6	42.9	14.3	28.6	14.3	-	7.1	14.3	-	-		
	地域活動支援センター	100.0 (10)	20.0	20.0	10.0	60.0	20.0	30.0	10.0	20.0	10.0	20.0	-	-	10.0		
	デイケア等	100.0 (25)	24.0	8.0	8.0	16.0	16.0	4.0	16.0	56.0	-	-	4.0	24.0	-		
	入所施設	100.0 (15)	6.7	6.7	-	-	13.3	-	-	-	-	-	6.7	53.3	33.3		
	その他	100.0 (18)	16.7	-	-	22.2	38.9	33.3	16.7	5.6	27.8	5.6	5.6	27.8	-		
20年度		100.0 (529)	19.7	11.7	8.9	19.7	20.2	16.1	9.8	14.2	5.3	5.5	4.3	27.0	4.3		

（注）平日の日中主に過ごしたところの「学校」については、母集団が少数であるため省略した。

○難病患者 1,034 人（回答者）の状況

※報告書の「第 5 章 難病患者の状況(223p～295p)」からの主な結果の抜粋

※難病患者は難病医療費等助成を受けている者を対象としているため、対象者抽出時点で生活保護受給者(助成対象外の者)は含まれていない。

※難病は系統ごとに、下記表のとおり「神経系」、「膠原系」、「その他」に三分類している。(本文 223p)

疾病名【神経系】	疾病名【その他】
多発性硬化症	再生不良性貧血
重症筋無力症	特発性血小板減少性紫斑病
スモン	潰瘍性大腸炎
筋萎縮性側索硬化症	ピュルガー病
脊髄小脳変性症	天疱瘡
パーキンソン病関連疾患 (進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症、 パーキンソン病)	クローン病
アミロイドーシス(原発性アミロイド症)	劇症肝炎
後縦靱帯骨化症	特発性拡張型(うっ血型)心筋症
ハンチントン病	表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)
モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	膿疱性乾癬
多系統萎縮症 (線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症、 シャイ・ドレーガー症候群)	原発性胆汁性肝硬変
広範脊柱管狭窄症	重症急性膵炎
プリオン病	原発性免疫不全症候群
神経線維腫症(Ⅰ型/Ⅱ型)	特発性間質性肺炎
亜急性硬化性全脳炎	網膜色素変性症
ライソゾーム病(ファブリー病含む)	肺動脈性肺高血圧症
副腎白質ジストロフィー	バッド・キアリ症候群
脊髄性筋萎縮症	慢性血栓性肺高血圧症
球脊髄性筋萎縮症	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)
慢性炎症性脱髄性多発神経炎	肥大型心筋症
ミトコンドリア病	拘束型心筋症
進行性筋ジストロフィー	リンパ脈管筋腫症(LAM)
母斑症	黄色靱帯骨化症
ミオトニー症候群	間脳下垂体機能障害
遺伝性(本態性)ニューロパチー	(PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、 ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、 クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)
先天性ミオパチー	ウィルソン病
	悪性高血圧
	骨髄線維症
疾病名【膠原系】	ネフローゼ症候群
ベーチェット病	多発性嚢胞腎
全身性エリテマトーデス	特発性門脈圧亢進症
サルコイドーシス	原発性硬化性胆管炎
強皮症	肝内結石症
皮膚筋炎・多発性筋炎	アレルギー性肉芽腫性血管炎
結節性動脈周囲炎 (結節性多発動脈炎、顕微鏡的多発血管炎)	びまん性汎細気管支炎
高安病(大動脈炎症候群)	遺伝性QT延長症候群
悪性関節リウマチ	網膜脈絡膜萎縮症
ウェゲナー肉芽腫症	自己免疫性肝炎
特発性大腿骨頭壊死症	
混合性結合組織病	
重症多形滲出性紅斑(急性期)	
脊髄空洞症	
シェーグレン症候群	
特発性好酸球増多症候群	
強直性脊椎炎	
成人スティル病	

1 就労の状況

(1) 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）－系統別三分類、年齢階級別

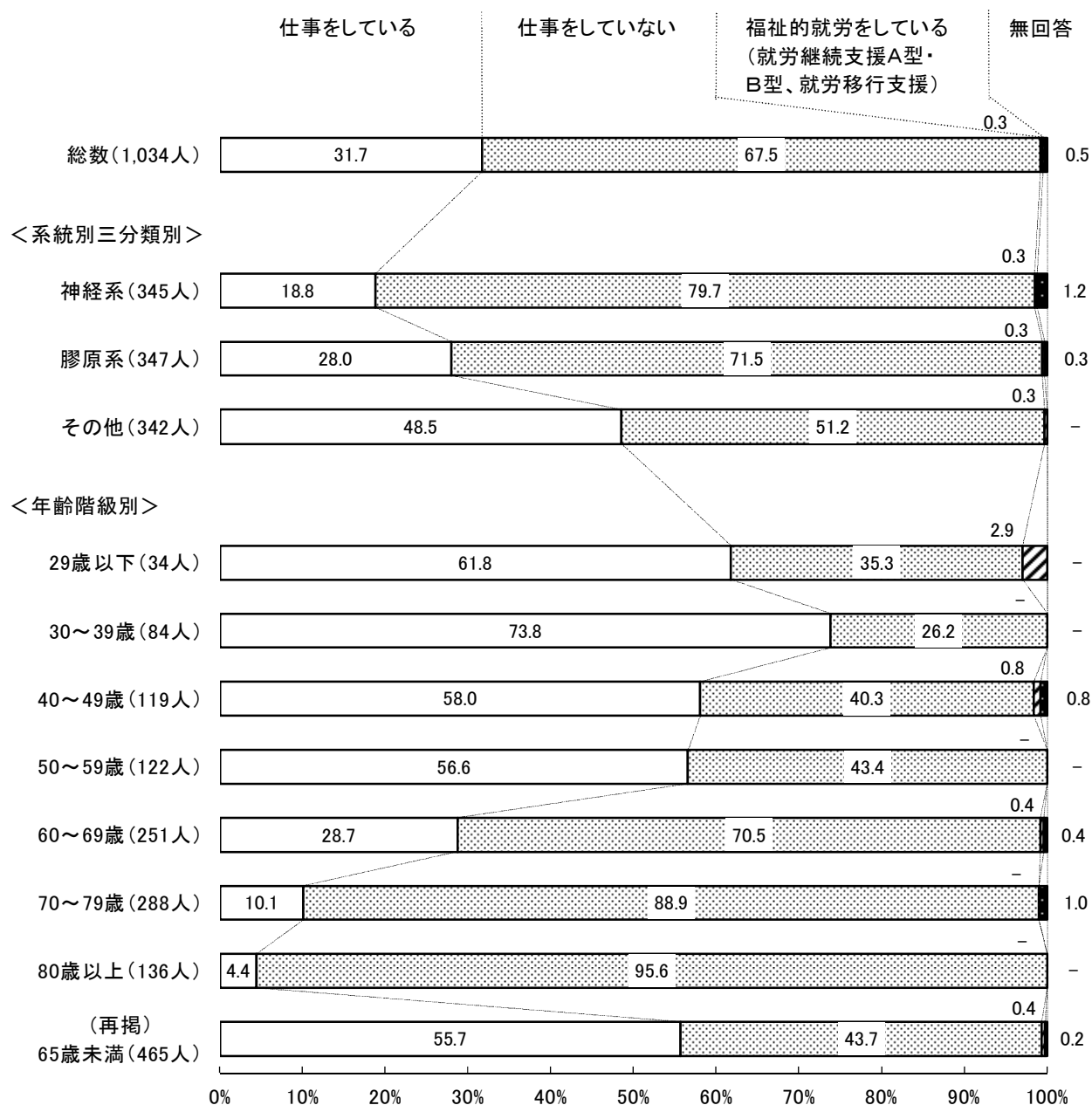
「仕事をしている」人は65歳未満では55.7%

収入を伴う仕事の有無は、「仕事をしている」割合が31.7%、「仕事をしていない」は67.5%、「福祉的就労をしている（就労継続支援A型・B型、就労移行支援）」は0.3%であった。

年齢階級別にみると、「仕事をしている」割合は、65歳未満では55.7%となっている。
系統別三分類別にみると、「その他」の系統では「仕事をしている」割合が48.5%と総数（31.7%）より10ポイント以上高くなっている。（図V-5-1 本文250p）

問 あなたは平成25年10月16日（調査基準日）現在、収入を伴う仕事をしていませんか。

図V-5-1 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）－系統別三分類、年齢階級別



(2) 仕事の種類〔複数回答〕—系統別三分類、年齢階級別

※調査基準日現在、「仕事をしている」と回答した 328 人が対象

「**正規の職員、従業員**」の割合が最も高く 36.6%、次いで「**非正規の職員、従業員**」が 35.1%

仕事の種類を聞いたところ、「正規の職員・従業員」が36.6%、「非正規の職員、従業員(パート・アルバイト・日雇等(契約職員・派遣職員を含む))」が35.1%と、いずれも約3人に1人程度の割合となった。

系統別三分類別にみると、膠原系では「非正規の職員・従業員」の割合が 41.2%と高くなっている。

また、年齢階級別にみると「正規の職員・従業員」の割合は、年齢が高くなるにつれて減少している。(表V-5-1 本文 251p)

問 ^{しごと}仕事の^{しゅるい}種類は^{なん}何ですか。

表 V-5-1 仕事の種類〔複数回答〕—系統別三分類、年齢階級別

		総 数	正 規 の 職 員 ・ 従 業 員	会 社 等 の 役 員	職 員 を 含 む （ 日 雇 等 ・ 契 約 職 員 ・ 派 遣 ）	（ パ ー ト ・ ア ル バ イ ト ・ 非 正 規 の 職 員 ・ 従 業 員 ）	自 営 業	家 業 の 手 伝 い	内 職	そ の 他	無 回 答
総数		100.0 (328)	<u>36.6</u>	8.2	<u>35.1</u>	16.2	2.7	0.9	2.4	0.3	
三 分 類 別	神経系	100.0 (65)	32.3	9.2	27.7	27.7	1.5	1.5	1.5	—	
	膠原系	100.0 (97)	33.0	7.2	<u>41.2</u>	14.4	4.1	—	1.0	—	
	その他	100.0 (166)	40.4	8.4	34.3	12.7	2.4	1.2	3.6	0.6	
年 齢 階 級 別	29歳以下	100.0 (21)	<u>61.9</u>	—	33.3	4.8	—	—	—	—	
	30～39歳	100.0 (62)	<u>54.8</u>	—	40.3	3.2	—	—	—	1.6	
	40～49歳	100.0 (69)	<u>44.9</u>	1.4	40.6	10.1	2.9	2.9	1.4	—	
	50～59歳	100.0 (69)	<u>34.8</u>	14.5	33.3	13.0	4.3	—	1.4	—	
	60～69歳	100.0 (72)	<u>22.2</u>	12.5	37.5	25.0	2.8	—	5.6	—	
	70歳以上	100.0 (35)	<u>5.7</u>	20.0	14.3	45.7	5.7	2.9	5.7	—	
	（再掲） 総数 65歳以上	100.0 (69)	14.5	18.8	23.2	36.2	5.8	1.4	4.3	—	

（３）仕事をしていく上で困ること〔３つまでの複数回答〕

－系統別三分類、仕事の種類〔複数回答〕別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である 261 人が対象

しごとを^{うえ}していく^{こま}上で^{ていきてき}困^{つういん}ることは、「^{けんこうかんり}定期的な^{りょうりつ}通院や^{わりあい}健康管理との^{もつと}両立^{たか}」の割合が 29.1%で最も高い

仕事をしていく上で「困ることがある」と答えた割合は 51.7%、「困ることは特にない」が 44.1%であった。困ることの内容で最も高い割合だったのが「定期的な通院や健康管理との両立」の 29.1%で、次いで高かった「急な体調の変化への配慮がない」の 11.5%よりも 17.6 ポイント高かった。

仕事の種類別にみると、正規の職員・従業員では「定期的な通院や健康管理との両立」が 36.7%と高い割合を示した。（表 V-5-3 本文 258p）

問 ^{しごと}仕事をしていく^{うえ}上で^{こま}困^{なん}ることは何ですか。

表 V-5-3 仕事をしていく上で困ること〔３つまでの複数回答〕

－系統別三分類、仕事の種類〔複数回答〕別

		総数	困ることがある	仕事の内容	人間関係（職場内でのいじめなど）	内容が伝わらない、言いたい	相手の言い分	職場の物理的な不十分	勤務時間・日数	通勤距離・時間	通勤時の混雑	定期的な通院や健康管理との両立	急な体調の変化への配慮がない	その他	困ることは特にない	無回答
総数		100.0 (261)	51.7	10.0	3.4	1.1	0.4	2.7	10.3	6.5	7.7	29.1	11.5	3.4	44.1	4.2
系統別	神経系	100.0 (45)	55.6	17.8	-	4.4	-	8.9	11.1	2.2	6.7	20.0	2.2	11.1	40.0	4.4
	膠原系	100.0 (79)	54.4	10.1	3.8	1.3	1.3	3.8	7.6	7.6	6.3	36.7	16.5	1.3	39.2	6.3
	その他	100.0 (137)	48.9	7.3	4.4	-	-	-	11.7	7.3	8.8	27.7	11.7	2.2	48.2	2.9
仕事の種類別	正規の職員・従業員	100.0 (120)	57.5	10.8	1.7	-	-	2.5	12.5	11.7	9.2	36.7	10.8	3.3	39.2	3.3
	会社等の役員	100.0 (27)	29.6	3.7	3.7	-	-	-	3.7	3.7	3.7	14.8	7.4	-	59.3	11.1
	非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員・派遣職員を含む））	100.0 (115)	50.4	10.4	5.2	2.6	0.9	3.5	9.6	1.7	7.0	24.3	13.0	4.3	45.2	4.3

2 経済基盤

(1) 収入の種類〔3つまでの複数回答〕－系統別三分類、年齢階級別

収入の種類は「年金・恩給」の割合が最も高く61.4%、次いで「賃金・給料」が29.2%

平成24年中の収入の種類を聞いたところ、「年金・恩給」の割合が最も高く61.4%、次いで「賃金・給料」29.2%、「手当」24.2%となっている。

系統別三分類別にみると、「神経系」では「年金・恩給」の割合が78.3%で、総数より16.9ポイント高くなっている。（表V-6-1 本文264p）

問 平成24年中のあなたご自身の収入の種類についてお聞きします。

表V-6-1 収入の種類〔3つまでの複数回答〕－系統別三分類、年齢階級別

		総数	賃金・給料	事業所得	内職収入	家賃・地代	利子・配当	仕送り・小遣い	養育費・慰謝料	年金・恩給	生活保護費※	手当	雇用保険	保険金・補償金	作業所等の工賃	その他の収入	収入はなかった	無回答
総数		100.0 (1,034)	29.2	3.2	0.4	5.6	2.6	2.2	0.1	61.4	0.2	24.2	0.5	1.1	0.3	3.6	6.6	0.6
系統別三分類別	神経系	100.0 (345)	15.1	3.5	0.6	7.5	3.8	2.6	-	78.3	0.3	21.7	-	0.6	0.3	3.8	5.2	0.9
	膠原系	100.0 (347)	28.0	2.6	-	2.9	1.7	2.3	0.3	57.6	0.3	29.4	0.3	1.4	0.3	2.3	8.4	0.6
	その他	100.0 (342)	44.7	3.5	0.6	6.4	2.3	1.8	-	48.2	-	21.3	1.2	1.2	0.3	4.7	6.1	0.3
年齢階級別	29歳以下	100.0 (34)	61.8	2.9	-	-	-	14.7	-	14.7	-	35.3	-	-	2.9	-	11.8	2.9
	30～39歳	100.0 (84)	72.6	2.4	-	1.2	-	4.8	-	4.8	-	29.8	-	1.2	-	2.4	10.7	-
	40～49歳	100.0 (119)	58.0	1.7	1.7	-	2.5	3.4	0.8	10.9	0.8	34.5	0.8	2.5	0.8	5.9	13.4	0.8
	50～59歳	100.0 (122)	54.9	3.3	0.8	9.0	4.1	1.6	-	18.0	-	36.9	1.6	-	-	2.5	9.0	0.8
	60～69歳	100.0 (251)	25.9	5.2	-	5.2	1.6	0.8	-	78.9	-	23.5	0.8	0.8	0.4	3.6	6.4	-
	70～79歳	100.0 (288)	5.9	2.8	-	6.9	3.8	1.0	-	92.7	0.3	17.4	-	1.4	-	3.8	2.8	0.7
	80歳以上	100.0 (136)	1.5	2.2	0.7	9.6	2.9	2.2	-	92.6	-	13.2	-	0.7	-	3.7	2.9	0.7
	(再掲)総数 65歳以上	100.0 (569)	9.1	2.6	0.2	7.2	3.3	1.2	-	91.9	0.2	17.4	0.2	1.2	0.2	3.5	3.2	0.5

(注) ※難病患者は難病医療費等助成を受けている者を対象としているため、対象者抽出時点で生活保護受給者（助成対象外の者）は含まれていない。

(2) 平成24年中の収入額（生活保護費を除く）－系統別三分類、年齢階級別

ねんしゅう まんえん まんえん み まん わりあい もっと たか
年 収 は「50万円～100万円未満」の割合が最 も 高い

平成24年中の収入額は「50～100万円未満」の割合が最も高く22.3%、次いで「50万円未満」が13.5%である。（表V-6-2 本文267p）

と い 問 あなたの平成24年中の収入額はいくらかですか。収入には、ご自身で働いて得た収入や就労継続支援事業所などからの収入のほか、あなたの年金・手当による収入や家族からの仕送りやお小遣いを含みますが、生活保護費は除きます。

表V-6-2 平成24年中の収入額（生活保護費を除く）－系統別三分類、年齢階級別

		総 数	収 入 な し	5 0 万 円 未 満	5 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	2 0 0 万 円 未 満	2 0 0 万 円 未 満	3 0 0 万 円 未 満	4 0 0 万 円 未 満	5 0 0 万 円 未 満	6 0 0 万 円 未 満	7 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	無 回 答
総数		100.0 (1,034)	6.6	13.5	22.3	11.3	9.2	9.1	5.8	7.4	3.6	2.5	2.4	2.3	1.1	0.9	1.9	
三分 類別	神経系	100.0 (345)	5.2	11.3	20.6	13.6	10.1	11.6	8.4	6.1	2.9	2.3	1.7	2.0	0.9	0.9	2.3	
	膠原系	100.0 (347)	8.4	17.3	26.8	11.5	9.2	6.6	3.7	6.1	3.5	1.4	1.7	1.2	-	0.6	2.0	
	その他	100.0 (342)	6.1	12.0	19.6	8.8	8.2	9.1	5.3	10.2	4.4	3.8	3.8	3.8	2.3	1.2	1.5	
年齢階 級別	29歳以下	100.0 (34)	11.8	11.8	20.6	8.8	11.8	5.9	-	20.6	5.9	-	-	-	-	-	2.9	
	30～39歳	100.0 (84)	10.7	17.9	8.3	6.0	2.4	8.3	3.6	9.5	10.7	9.5	4.8	4.8	1.2	-	2.4	
	40～49歳	100.0 (119)	14.3	18.5	14.3	6.7	8.4	2.5	7.6	8.4	5.0	1.7	5.0	4.2	1.7	0.8	0.8	
	50～59歳	100.0 (122)	9.0	23.8	18.9	4.9	4.1	4.9	2.5	6.6	3.3	4.1	6.6	5.7	1.6	2.5	1.6	
	60～69歳	100.0 (251)	6.4	11.6	24.3	17.5	8.0	10.4	5.2	6.4	3.2	0.8	1.2	2.0	1.6	1.2	0.4	
	70～79歳	100.0 (288)	2.4	8.7	29.5	11.8	12.8	12.2	7.6	5.9	2.1	2.1	0.7	0.7	0.3	-	3.1	
	80歳以上	100.0 (136)	2.9	11.8	22.8	12.5	12.5	11.0	7.4	8.1	1.5	2.2	1.5	0.7	0.7	1.5	2.9	
	(再掲) 総数 65歳以上	100.0 (569)	3.0	9.3	27.2	13.4	11.8	11.4	6.9	6.9	2.3	1.8	1.1	1.1	0.7	0.9	2.5	

3 社会参加等

社会参加をする上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

－系統別三分類、平日の日中主に過ごしたところ別

社会参加をする上で妨げになっていることは「^{しやかいさんか}病状に変化があること」の割合が最も高く 31.1%

社会参加をする上で妨げになっていることを聞いたところ、「特にない」の割合が 44.1%で最も高く、「病状に変化があること」が 31.1%となっている。

系統別三分類別にみると、「神経系」では「病状によって利用できる施設が無いこと」と「介助者がいない」の割合が 12.5%、11.0%となっており、他の分類よりも高くなっている。（表 V-7-3 本文 271p）

問 あなたが^{しやかいさんか}社会参加をする上で、^{うえ}妨げになっていることはありますか。

表 V-7-3 社会参加をする上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

－系統別三分類、平日の日中主に過ごしたところ別

		総数	経済的な理由	介助者がいない	情報が ない	周りの 理人 解不 足	病状に 変化 がある こと	施設が 無いこ と利用 できる	適切な 相談相 手が いない	一緒 に行く 仲間が いない	その他	特 に ない	無 回 答
総数		100.0 (1,034)	10.8	5.6	4.1	8.2	31.1	7.2	2.9	5.3	10.4	44.1	1.4
系統別	神経系	100.0 (345)	10.1	11.0	4.9	8.4	31.9	12.5	2.9	7.0	14.5	35.7	2.6
	膠原系	100.0 (347)	13.5	4.0	2.6	8.4	37.8	5.5	2.6	4.0	8.9	42.9	0.6
	その他	100.0 (342)	8.8	1.8	4.7	7.9	23.7	3.5	3.2	5.0	7.9	53.8	0.9
平日の日中主に 過ごしたところ別	自分の家	100.0 (743)	10.9	6.7	4.2	7.9	33.6	8.2	3.5	6.6	11.3	39.3	1.3
	職場（福祉的就労の施設を除く）	100.0 (223)	12.6	0.9	3.1	7.6	23.8	1.3	1.8	1.3	6.3	62.8	0.9
	通所施設（デイセンター、地域活動支援センター等を含む）	100.0 (28)	7.1	10.7	10.7	17.9	32.1	17.9	-	3.6	10.7	35.7	-
	入所施設・入院施設	100.0 (20)	-	10.0	5.0	5.0	25.0	15.0	-	5.0	20.0	30.0	5.0
	その他	100.0 (10)	-	10.0	-	10.0	30.0	20.0	-	10.0	10.0	50.0	-

（注）平日の日中主に過ごしたところが「職場（福祉的就労の施設）」「学校」については母集団が少数であるため省略した。

4 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

「医療の充実」が必要であると答えた割合が最も高く40.7%

地域生活をする上で必要な福祉サービス等を聞いたところ、「医療の充実」と答えた割合が40.7%で最も高く、次いで「駅や道路における段差などのバリアフリー（23.5%）」、「所得保障（21.4%）」と続く。（図V-10-1 本文 289p）

問 あなたが、地域生活をしたり、しようとする上で、必要な福祉サービス等は何ですか。

図 V-10-1 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

